

144. マンパワー manpower

「外来語」言い換え提案（第3回）

マンパワー	全体 ★☆☆☆	60歳以上 ★☆☆☆
言い換え語	人的資源	
用例	財政問題と同時に <u>マンパワー</u> の問題が出てくる。	
意味説明	特定の仕事にあてがうことのできる、人間の働き	
手引き	・文脈によっては、「労働力」「人材」と言い換えることのできる場合も多い。	
その他の言い換え語例	労働力 人材	

【調査データ】

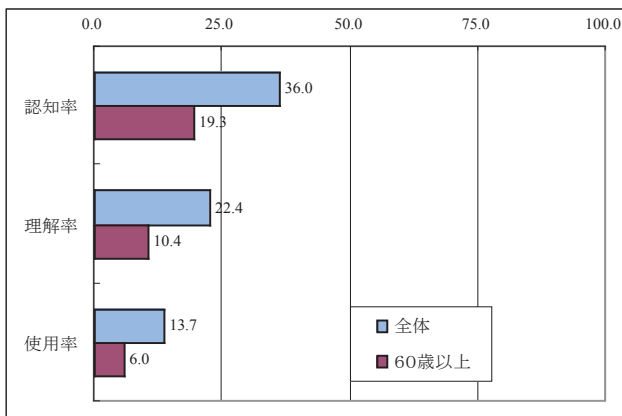


図1 定着度（全体・60歳以上）%

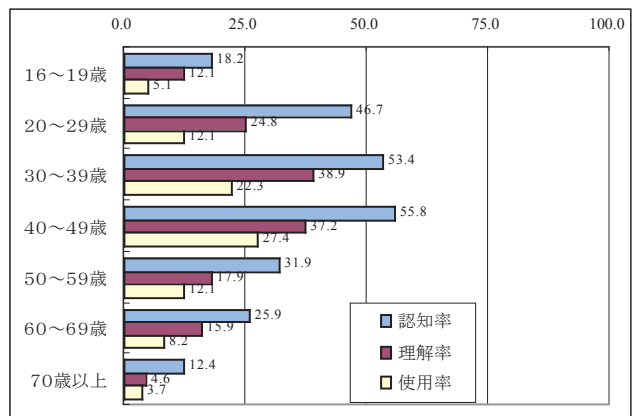


図2 定着度（年齢層別）%

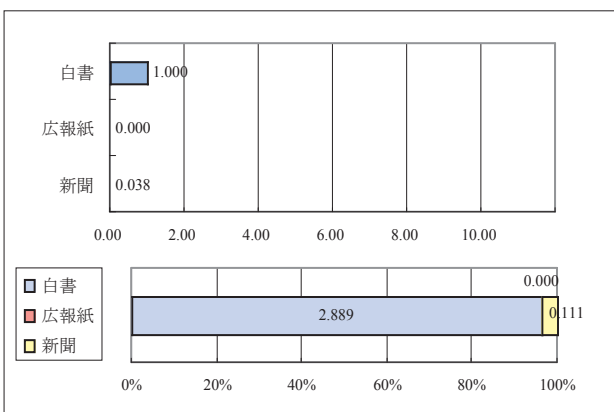


図3 公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

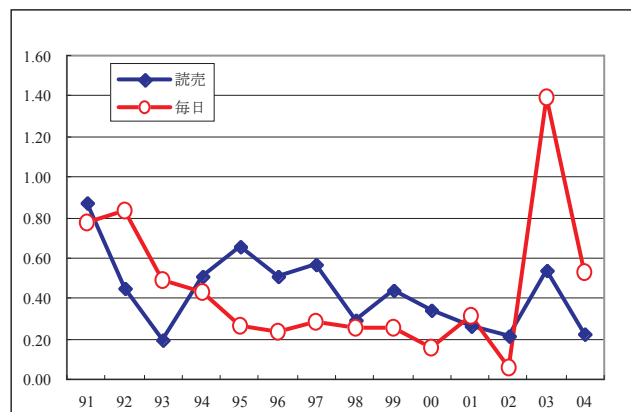


図4 新聞14年間の頻度推移 (出現率)

- 定着度は低い。
- 公共媒体における頻度は中程度だがどちらかといえば低い。白書への偏在度がきわめて高い。
- 新聞の頻度は2003年のみが突出するが、これは、この年に起こった大きな事件に関与した企業名の一部に「マンパワー」が含まれていたことによるものである。この年を除くと、低頻度での横ばいである。

【言い換えの論点】

○仕事に投入できる人の力を指す言葉だが、使用例を見ると、人材の側面に着眼する場合と、労働力の側面に着眼する場合と、両方の側面がある。前者の側面を強調したい場合は「人材」、後者の側面を強く出したい場合は「労働力」、と言い換え語を使い分ける工夫についても、[手引き]で言及した。

145. ミスマッチ mismatch

「外来語」言い換え提案（第2回）

ミスマッチ	全体 ★★★★★	60歳以上 ★★☆☆☆
言い換え語	不釣り合い	
用例	企業の求人意欲が回復してきたとはいえ、求職者との不釣り合いなミスマッチが大きく、完全失業者数は16カ月連続で増えている。	
意味説明	関係ある二つのものごとの調和が悪く、不釣り合いなこと	
手引き	<ul style="list-style-type: none"> ・硬い文体で用いる場合は、「不適合」「不調和」などと言い換えることも考えられる。 ・定着に向かって語だと思われ、「ミスマッチ」をそのまま用いることにさほど問題のない場面も多いと思われる。ただし、60歳以上では半数以上が分からない語であり、言い換えや説明付与が望まれる場合も多い。 	
その他の言い換え語例	不適合 不調和	

【調査データ】

- 定着度はやや高い。年齢層による差異が大きい。60歳代が低い。
- 公共媒体における頻度は高い。白書への偏在度がきわめて高い。
- 新聞の頻度は、2001年まで増加の方向にあり、その後減少に転じている。

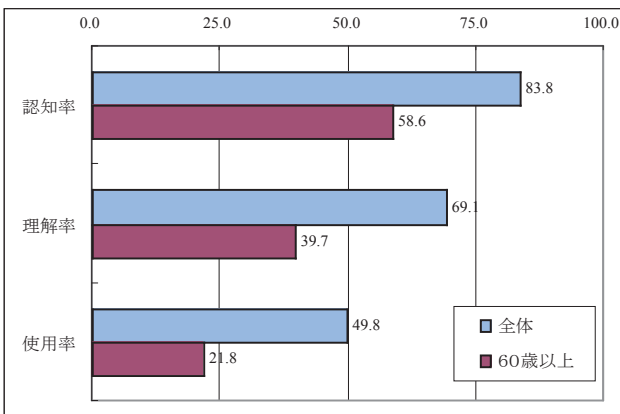


図1 定着度（全体・60歳以上）%

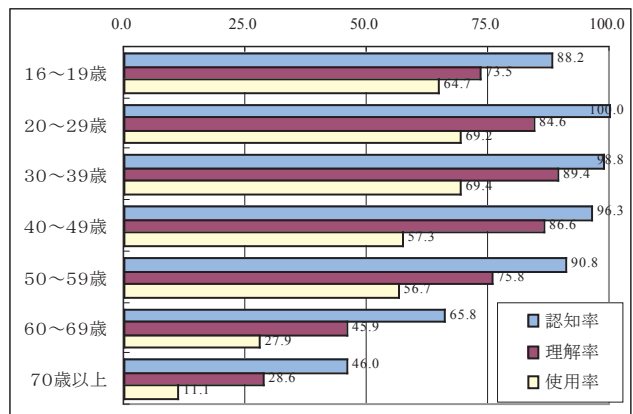


図2 定着度（年齢層別）%

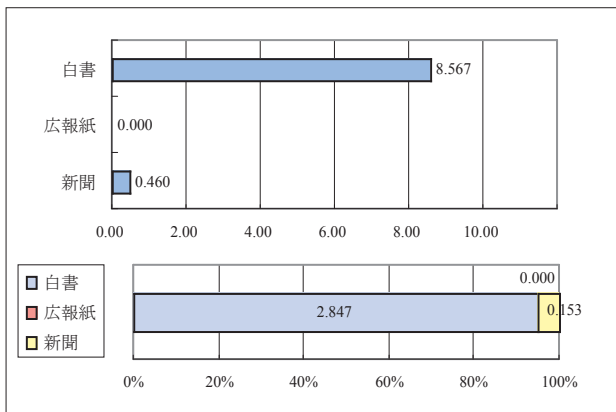


図3 公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

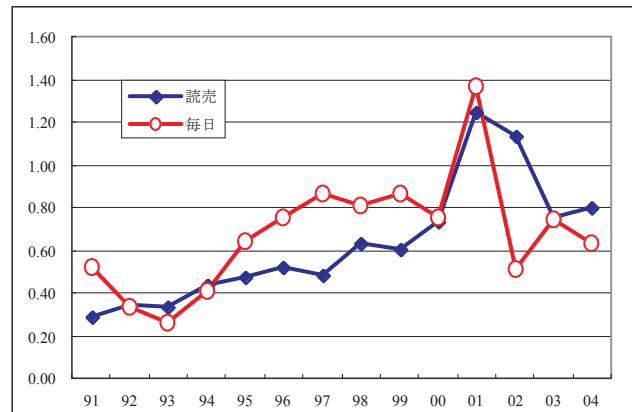


図4 新聞14年間の頻度推移(出現率)

【背景事情】

○2001年までの増加は、雇用における求人と求職の不釣り合いを指す用法が増加したことにより、2002年以後の減少も、この用法が減少していくことによるものである。社会問題と連動した用語の盛衰であると見られる。

【言い換えの論点】

○言い換え語を「不釣り合い」とすることは、意味も適切で、耳で聞いても分かりやすく、異論がなかった。

146. ミッション mission

「外来語」言い換え提案(第3回)

	全体	60歳以上
ミッション	★☆☆☆	★☆☆☆
言い換え語	使節団	使命
用例	<p>両社は今年2月、北九州市が仁川広域市に派遣した使節団のミッションの商談会で出会い、開発を進めてきた。</p> <p>人権が無視され、虐げられた子どもたちの現実を日本をはじめ世界中に伝えていくのが、親善大使の使命だと思っています。</p>	
意味説明	ある目的のため、主に海外に派遣される団体。また、その団体が果たすべき任務。	
手引き	<ul style="list-style-type: none"> 文脈によっては、単に「使節」あるいは「派遣団」、「任務」と言い換えることが適切になる場合もある。 「〇〇ミッション」など、使節団の名称を引用する場合も、説明を付けるなどの配慮をすることが望ましい。 キリスト教の伝道のために創設された学校を指す「ミッションスクール」を約して「ミッション」と言われることがある。また、自動車などの変速機を指す「トランスミッション」を約して「ミッション」が用いられることがある。いずれも比較的定着してきているが、前者は「伝道」、後者は「変速機」などと、言い換えたり説明を付けたりすることもできる。 	
その他の言い換え語例	使節 派遣団 任務	

【調査データ】

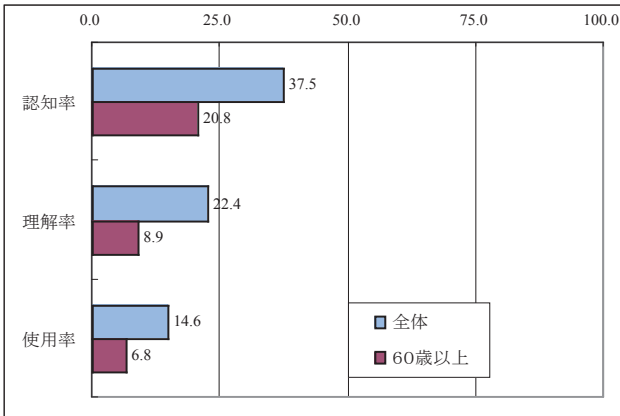


図1 定着度（全体・60歳以上）%

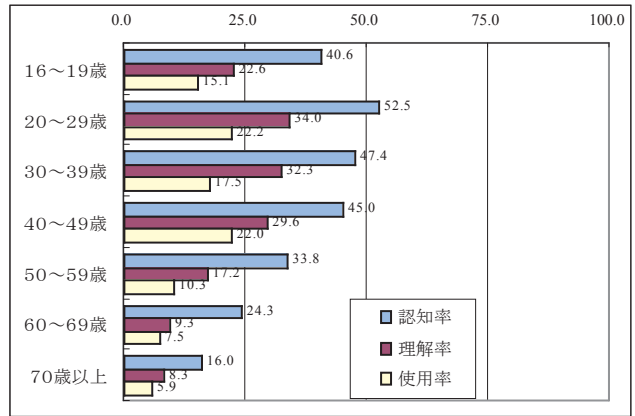


図2 定着度（年齢層別）%

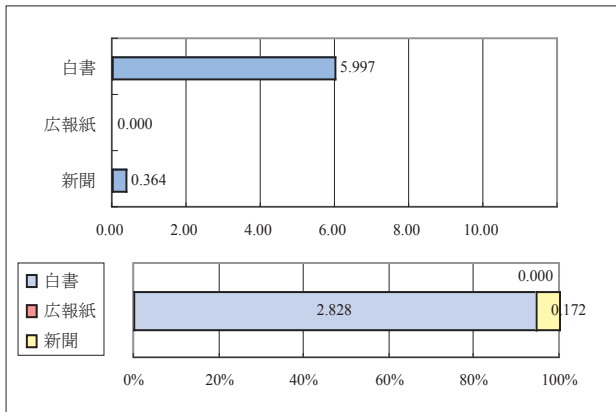


図3 公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

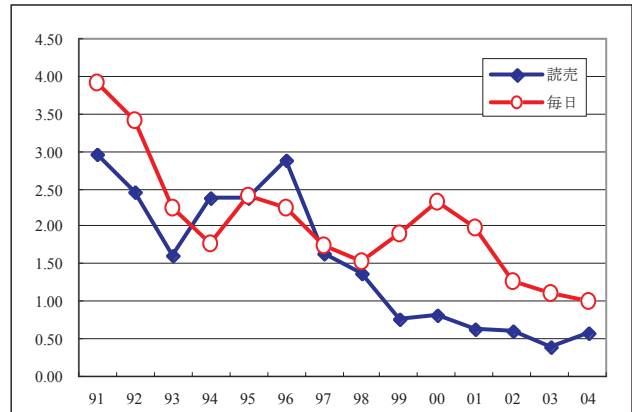


図4 新聞14年間の頻度推移 (出現率)

- 定着度は低い。
- 公共媒体における頻度はやや高い。白書への偏在度がきわめて高い。
- 新聞の頻度は、全体として減少の方向にある。

【言い換えの論点】

○ 言い換え語は、「使命」よりも「任務」の方がよいという意見が、外部から多く寄せられた。確かに、「任務」と言い換えて通りのよい文脈で使われることは多い。しかし、「ミッション」の持つ、団体とその役割という意味の両側面を対応付けた言い換え語としては、「使節団」「使命」をセットとするのが分かりやすいと考えた。

147. メディカルチェック 和製語

「外来語」言い換え提案（第4回）

メディカルチェック	全体 ★★★★☆	60歳以上 ★★★☆☆
言い換え語	医学的検査	
用例	医学的検査 メディカルチェックによって身体の異常や病気の有無を確認しておく必要がある。	
意味説明	運動に備えて事前に行う医学的な検査	
手引き	<ul style="list-style-type: none"> ・運動前の検査のほか、スポーツ選手の入団や大会出場の前に行われる検査を指して用いられることが多い。 ・場面や文脈によっては、以前からある「健康診断」「身体検査」などの語を用いる方が分かりやすい場合もある。 ・定着に向かっている語だと思われ、「メディカルチェック」をそのまま用いることにさほど問題のない場面も多いと思われる。ただし60歳以上では、半数以上が分からない語であり、言い換えや説明付与が望まれる場合も多い。 ・和製語 	
その他の言い換え語例	健康診断 身体検査	

【調査データ】

- 定着度は中程度だがどちらかといえば高い。
- 公共媒体における頻度はきわめて低い（調査対象には使用例がない）。
- 新聞の頻度は、2002年に突出するが、ワールドカップサッカー日韓大会に向けた選手の「メディカルチェック」のニュースが繰り返し報道されたことによるものである。この年以外は、全般に低頻度で増減の方向はない。

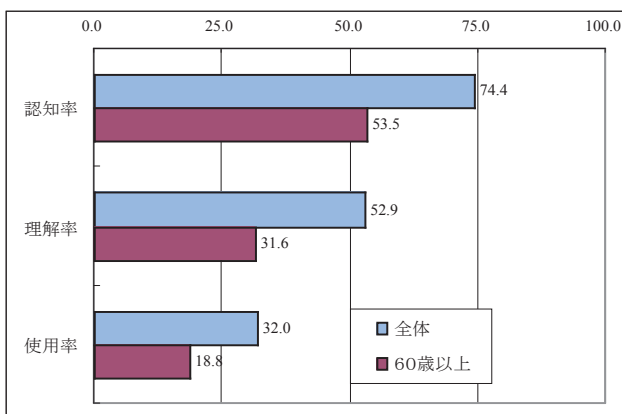


図1 定着度（全体・60歳以上）%

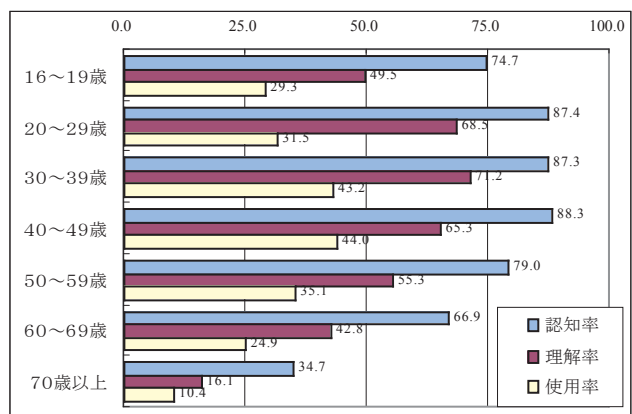


図2 定着度（年齢層別）%



図3 公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

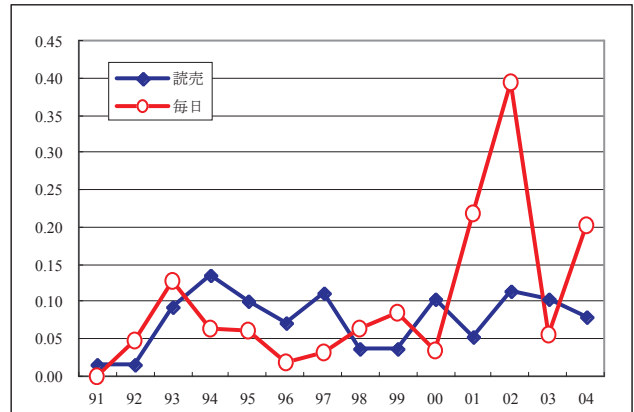


図4 新聞14年間の頻度推移 (出現率)

【言い換えの論点】

○公共媒体で目にするものは、スポーツ選手の入団や大会出場前の健診を指す例がほとんど。医療機関などでは、運動に備えた健診に限定しないで使われることもあるが、その場合は「健康診断」「身体検査」など、従来ある語で言い換えることができると考えられる。

148. メンタルヘルス mental health

「外来語」言い換え提案 (第1回)

	全体	60歳以上
メンタルヘルス	★★☆☆	★☆☆☆
言い換え語	心の健康	
用例	今日ほど <u>心の健康</u> メンタルヘルスの重要性が叫ばれている時代はない。	
意味説明	心の健康を保つこと	
手引き	<ul style="list-style-type: none"> ・「心の健康」を保つことに着目して、その意味を生かしたい場合は「精神保健」と言い換えることも考えられる。 ・「精神保健」の語は、臨床の場など専門分野でよく使われる。 	
その他の言い換え語例	精神保健 精神衛生	
複合語例	メンタルヘルスケア = 心の健康づくり	

【調査データ】

- 定着度はやや低い。40歳代が高い。
- 公共媒体における頻度は中程度だがどちらかといえば高い。白書への偏在度がきわめて高い。
- 新聞の頻度は、読売新聞の1995年で突出するが、これは、この年に連載された記事の著者の所属組織の名称に「メンタルヘルス」の語が含まれていたことによるものである。それ以外の年は、ほぼ横ばいだが、2000年代にはゆるやかな増加傾向も見て取れる。

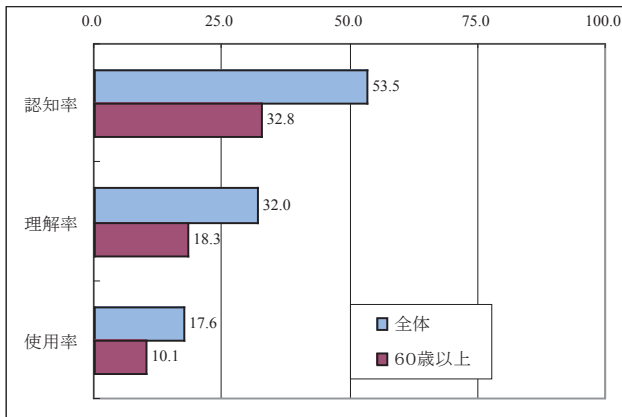


図1 定着度（全体・60歳以上）%

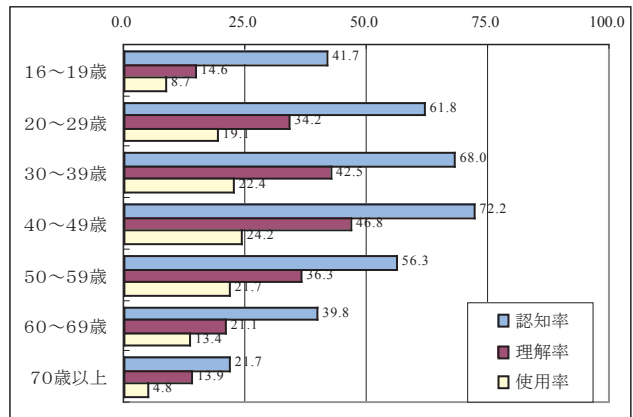


図2 定着度（年齢層別）%

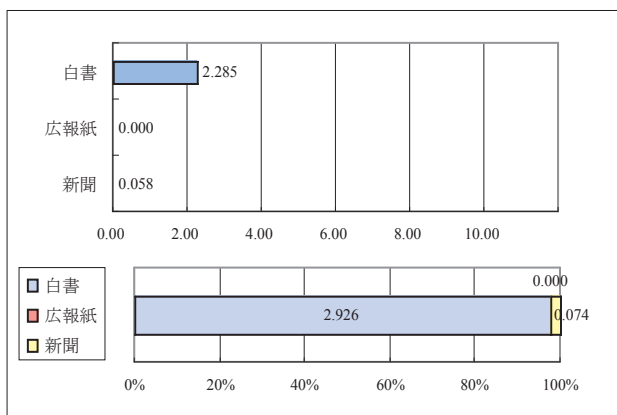


図3 公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

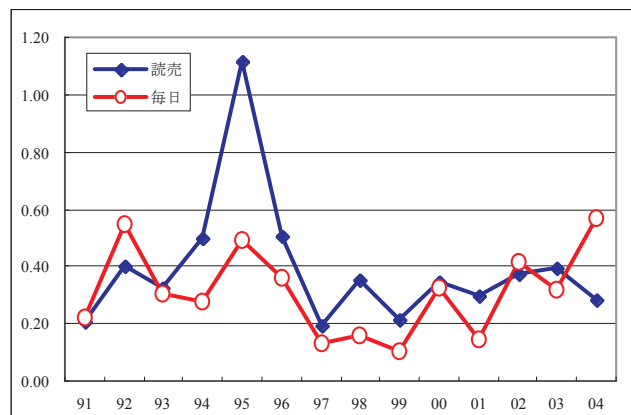


図4 新聞14年間の頻度推移 (出現率)

【背景事情】

○新聞の頻度の2000年代のゆるやかな増加は、職場の「メンタルヘルス」が話題になることが増えてきたことによるものと考えられる。

【言い換えの論点】

○従来よく使われてきた「精神衛生」で言い換えるべきという意見もあった。「精神衛生」が心を安らかに保つことを広く意味するのに対して、「メンタルヘルス」は、過度な負担や重圧から心の健康を守ろうとするものだと考えられるので、「精神衛生」とは別の言い換え語をあてる方が適切だという意見が強かった。

149. モータリゼーション motorization

「外来語」 言い換え提案 (第1回)

全体 60歳以上
 ★☆☆☆ ★☆☆☆

モータリゼーション

言い換え語 車社会化

用例 高速道路網の整備が進み、モータリゼーションの波の中で在来線は主役の座から降りざるを得なかったのである。

意味説明
 自家用車の普及や大衆化

手引き

- ・自家用車が普及し始めた1960年代から使われている語であるが、定着度は低い段階にとどまっており、言い換えや説明付与が必要である。
- ・文脈によっては単に「車社会」と言い換えたり、「車の普及」「車の大衆化」などと説明を付けたりすることも考えられる。

その他の言い換え語例 車社会

【調査データ】

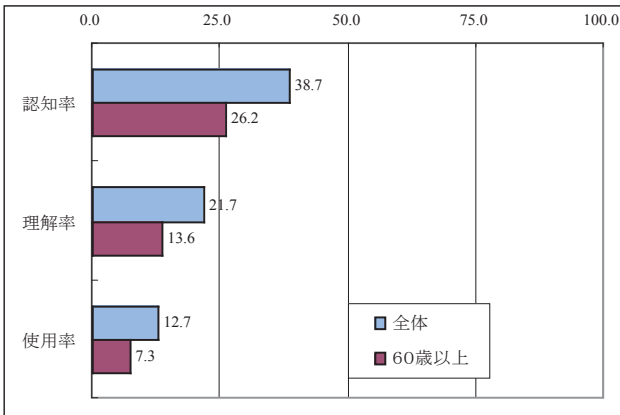


図1 定着度 (全体・60歳以上) %

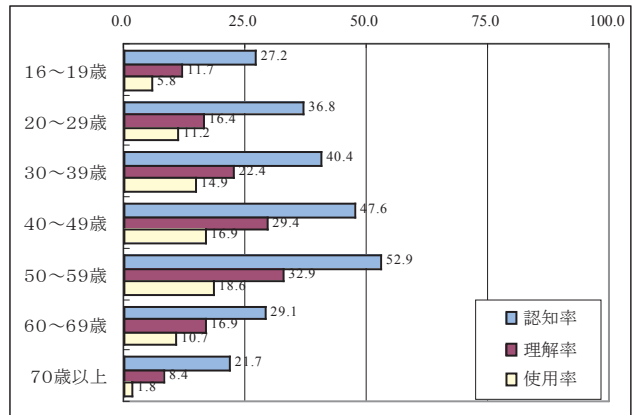


図2 定着度 (年齢層別) %

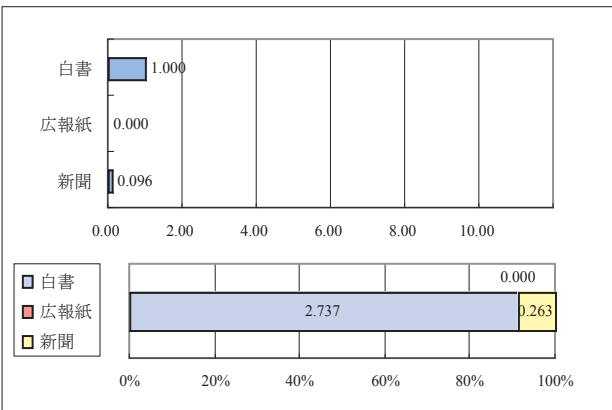


図3 公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

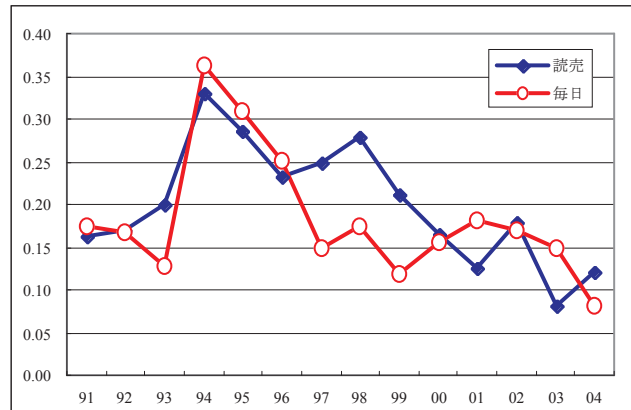


図4 新聞14年間の頻度推移 (出現率)

- 定着度は低い。
- 公共媒体における頻度は中程度だがどちらかといえば低い。白書への偏在度が高い。
- 新聞の頻度推移は、1990年代半ばにやや多くなるが、その後は減少の方向にある。

【言い換えの論点】

- 「車社会化」の「化」が付くことによって、言い換え語が硬く分かりにくくなるという意見があった。「車の普及」のように句の形にしたり、単に「車社会」と言い換えたりすることで文意が通じる場合も多いことを、[手引き]に記した。

150. モチベーション motivation

「外来語」言い換え提案（第1回）

	全体 ★★★★	60歳以上 ★★☆☆
モチベーション	★★★★	★★☆☆
言い換え語	動機付け	
用例	人間が幸せのために努力するモチベーションとなっているのは、動物としての生存本能だ。	
意味説明	ものごとに取り組む意欲を内側から高める働きかけ	
手引き	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲を高めるもととなる「動機付け」を意味する語だが、スポーツや仕事の分野では、意欲そのものを指して用いられることも多い。その場合は「意欲」「やる気」「士気」などで、言い換えることができる。 ・「動機付け」とも言い換えられる類義の外来語に「インセンティブ」[⇒18]がある。「モチベーション」が、意欲を内側から高める働きかけであるのに対して、「インセンティブ」は、報酬などによって意欲を外側から刺激する働きかけを指し、「意欲刺激」と言い換えられる。 	
その他の言い換え語例	意欲 やる気 士気	

【調査データ】

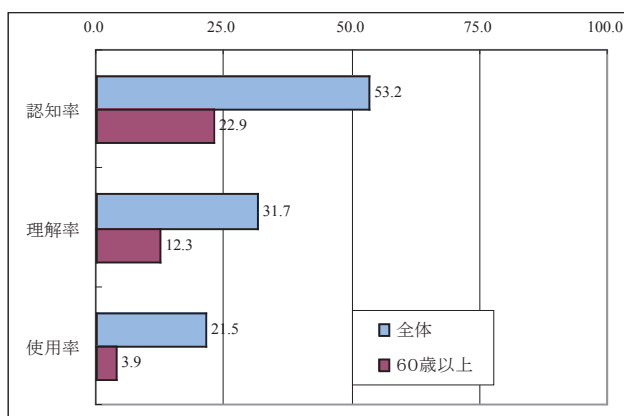


図1 定着度（全体・60歳以上）%

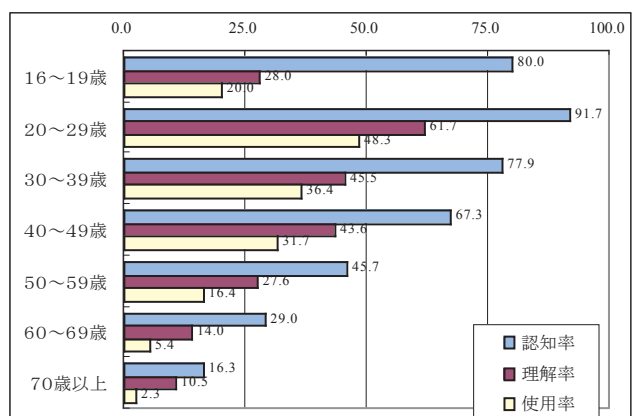


図2 定着度（年齢層別）%

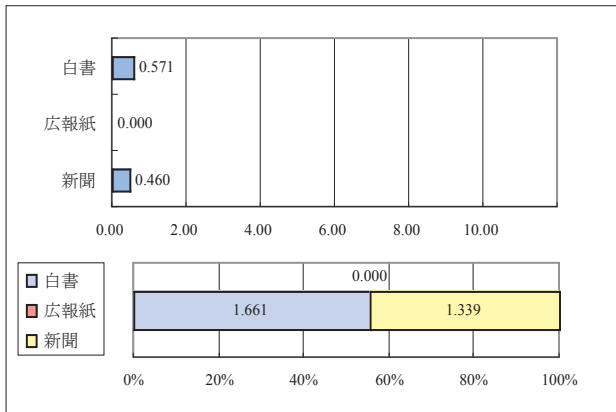


図3 公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

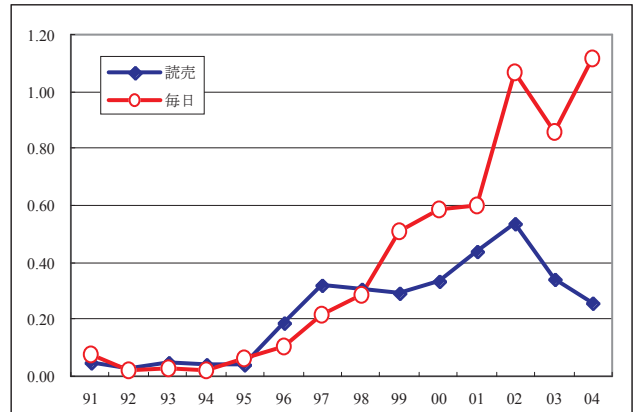


図4 新聞14年間の頻度推移(出現率)

- 定着度はやや低い。20歳代が高く、60歳代が特に低い。
- 公共媒体における頻度は中程度だがどちらかといえば低い。
- 新聞の頻度推移は、1990年代後半から増加の方向にある。読売新聞では2003年以後減少に転じている。

【背景事情】

- 新聞の頻度が増加する1996年以後は、特にスポーツの話題で、選手の戦う意欲を表す例が増加する。この時期から、「動機付け」の意味で使われた例よりも、「意欲」「やる気」「士気」の意味で使われた例が多くなる。スポーツの分野の言葉となったことで、意味を拡張し、一般化を進めているのではないかと考えられる。

【言い換えの論点】

- 急速に一般化してきているが、使い勝手のよさから安易に使われている面もあるので、意味を明示できる言い換えの必要性は高いと考えた。
- 本来の意味の「動機付け」と、スポーツの分野から広まっている「意欲」などを区別して言い換えることが、意味概念の整理には役立つと考えた。

→参照 インセンティブ

151. モニタリング monitoring

「外来語」 言い換え提案 (第2回)

	全体	60歳以上
モニタリング	★★☆☆	★☆☆☆
言い換え語	継続監視	
用例	関係国がSO _x , NO _x 等の酸性雨原因物質の削減を進めるとともに、共同で酸性雨や森林のモニタリング、影響の解明などに努めています。	
意味説明	継続的に観測して監視すること	
手引き	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単に「監視」「観測」だけで言い換えられる場合もある。 ・ 類義の外来語「サーベイランス」(調査監視) [⇒59]が、病気や、政治経済の悪い部分を見逃さないようによく調べて監視することをいうのに対して、「モニタリング」は、変化を見逃さないように観測を続けて監視することをいう。 	

その他の言い換え語例 監視 観測

複合語例 モニタリングポスト = 放射線観測装置

【調査データ】

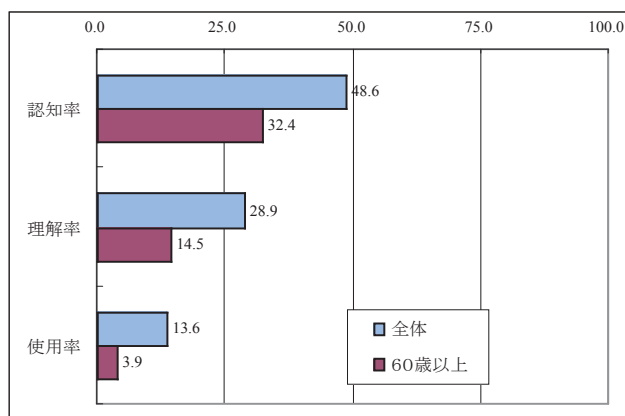


図1 定着度（全体・60歳以上）%

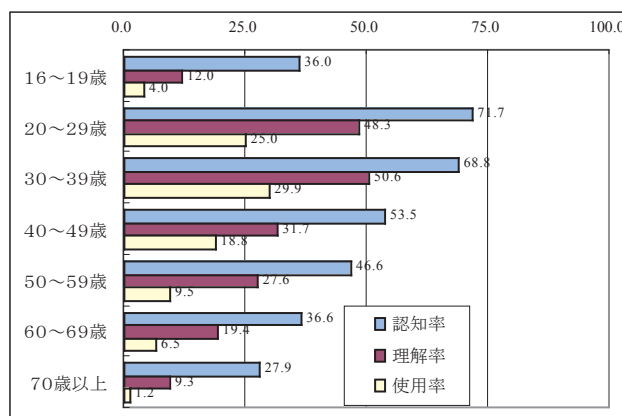


図2 定着度（年齢層別）%

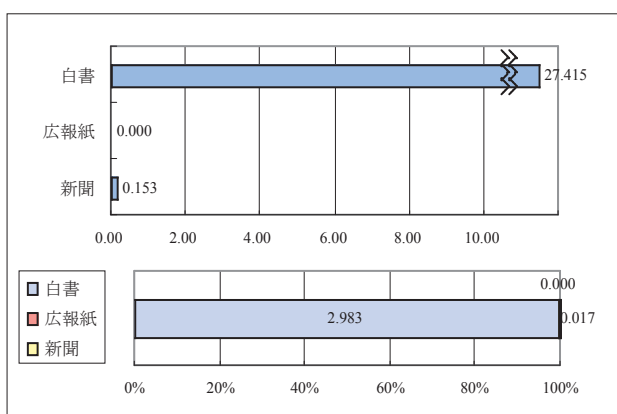


図3 公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

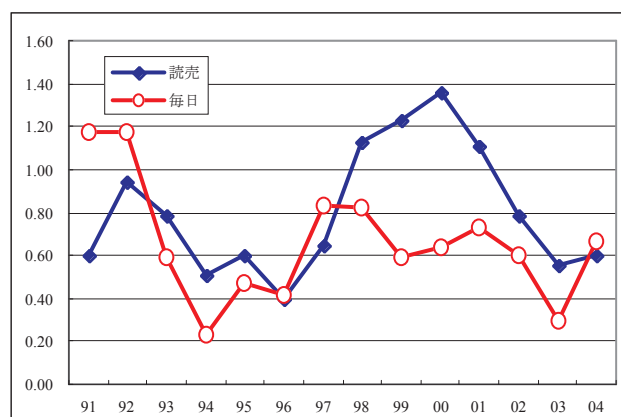


図4 新聞14年間の頻度推移（出現率）

- 定着度はやや低い。理解率と使用率の乖離が大きい。20～30歳代が高い。
- 公共媒体における頻度は高い。白書への偏在度がきわめて高い。
- 新聞の頻度推移のグラフからは、1990年代初めと2000年前後とに二つの山が読み取れ、2004年にも増加している。

【背景事情】

- 1990年代初めは、輸出規制に関する継続監視を表す例が多かったが、2000年前後には環境保全に関する継続監視を表す例が多くなった。また、2004年の増加は鳥インフルエンザにかかわる継続監視を表す例の増加によるものである。

【言い換えの論点】

- 言い換え語は、単に「監視」とするだけでよい、という意見も強かった。一方、類義の「サーベイランス」や「監視」と意味を区別するためには、「モニタリング」の意味を特徴付ける「継続的に」という意味を持つ言葉を言い換え語に含めるべきだとの意見も強かった。後者の意見を採用したが、「継続的に」の意味が文脈から明らかな場合は、「監視」だけでも十分であることを、[手引き]に記した。

→参照 サーベイランス

152. モビリティー mobility

「外来語」言い換え提案（第3回）

	全体	60歳以上
モビリティー	★★★★	★★★★
言い換え語	移動性	
用例	高齢者が安心して暮らせる居住環境を確保するとともに、福祉や介護を支える <u>モビリティー</u> を確保することが一層重要である。	
意味説明	容易に移動できるように、手段や環境が整備されていること	
手引き	<ul style="list-style-type: none"> ・意味をより明確に示した「移動利便性」「移動しやすさ」などの言い換え語を用いることもできる。物資や、人や金などの流動を容易にする手段や環境を指す場合は、「流動性」を用いることもできる。 ・高齢者や障害者が、苦勞しないで街を歩けるように、スクーター等の機器を貸し出すシステムを指して、「ショップモビリティー」「タウンモビリティー」などの語が使われることがある。これらは「お出かけスクーター」など、分かりやすい表現を工夫するのが望ましい。 	
その他の言い換え語例	移動利便性 移動しやすさ 流動性	
複合語例	ショップモビリティー = お出かけスクーター タウンモビリティー = お出かけスクーター	

【調査データ】

- 定着度はきわめて低い。認知率と理解率の乖離が大きい。
- 公共媒体における頻度は中程度だがどちらかといえば低い。白書への偏在度がきわめて高い。
- 新聞の頻度はきわめて低く、増減の方向は見取れない。

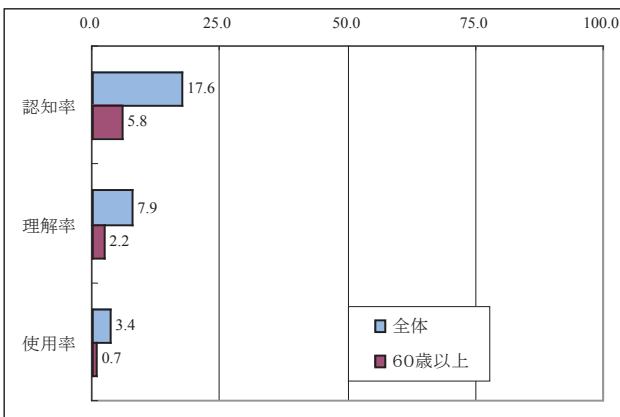


図1 定着度（全体・60歳以上）%

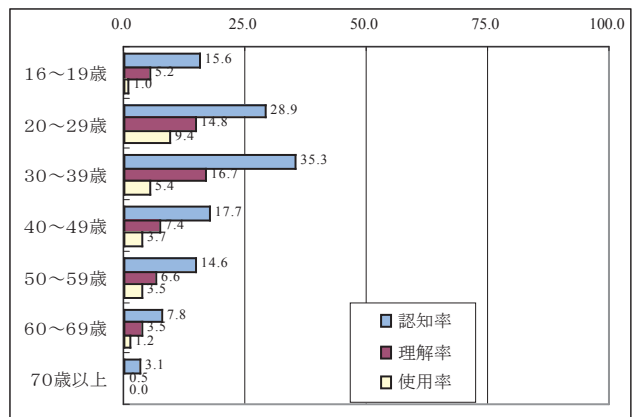


図2 定着度（年齢層別）%

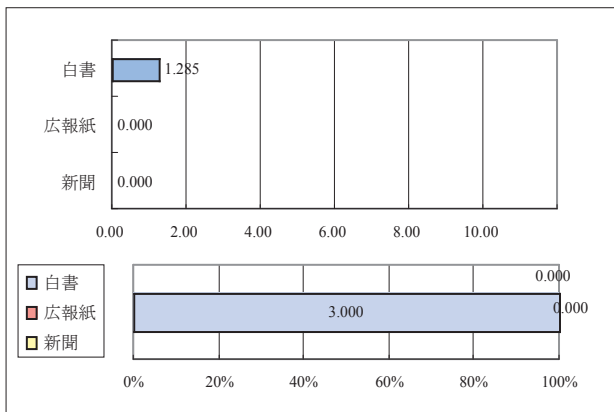


図3 公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

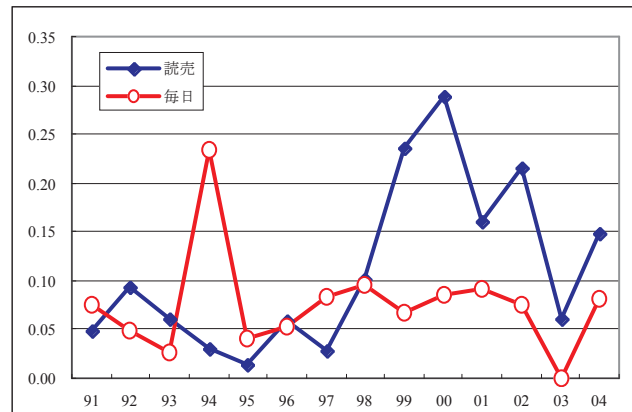


図4 新聞14年間の頻度推移(出現率)

【言い換えの論点】

○意味が明示でき、使い勝手のよい「移動利便性」が適切という意見もあった。一方で「移動利便性」は語形が長いので、意味の限定はできなくとも「移動性」の方が適切という意見も強かった。後者の立場に立ち、「移動利便性」の適切さについては、[手引き]で言及した。

153. モラトリアム moratorium

「外来語」言い換え提案(第1回)

	全体	60歳以上
モラトリアム	★☆☆☆	★☆☆☆
言い換え語	猶予	
用例	米国が核実験の <u>猶予</u> のモラトリアムの継続を決めた。	
意味説明	猶予を与えること	
手引き	・債務などの支払いを猶予する場合は「債務支払い猶予」、社会人になるべき時期を先延ばしする場合は「猶予期間」などと、文脈によって言い換え語を変える工夫も効果的である。	
その他の言い換え語例	債務支払い猶予 猶予期間	

【調査データ】

- 定着度はきわめて低い。認知率と理解率の乖離が大きい。
- 公共媒体における頻度は中程度だがどちらかといえば低い。白書への偏在度がやや高い。
- 新聞の頻度は、全体として減少の方向にある。

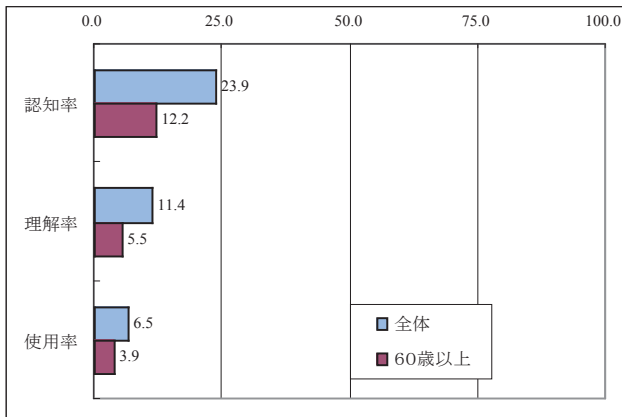


図1 定着度（全体・60歳以上）%

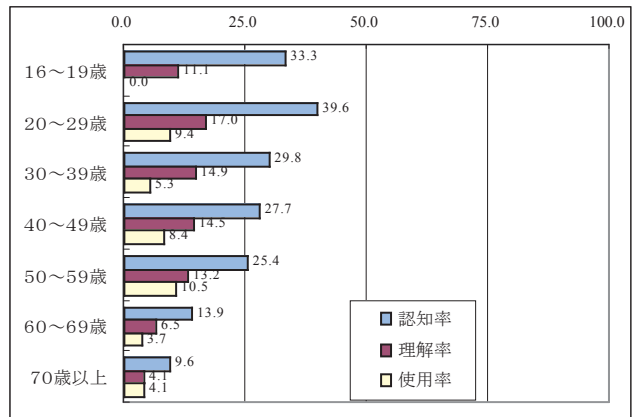


図2 定着度（年齢層別）%

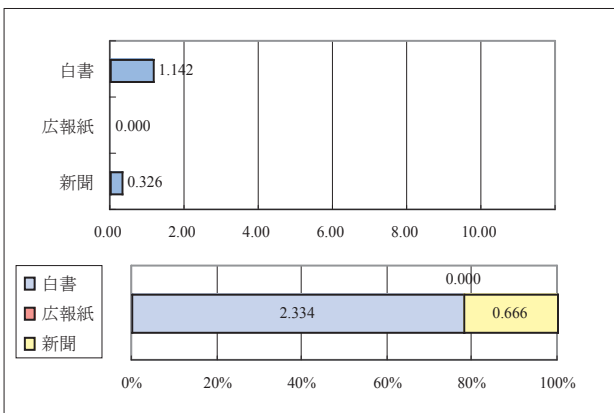


図3 公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

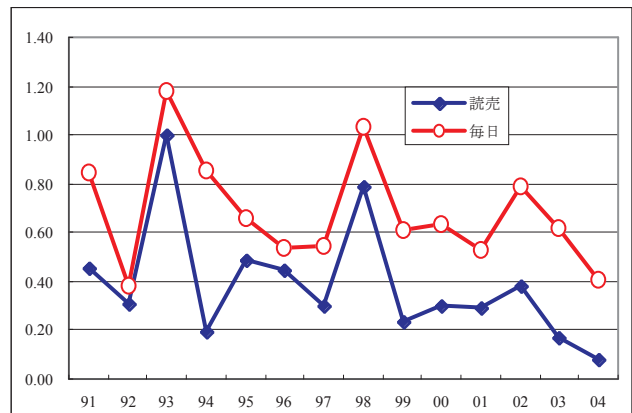


図4 新聞14年間の頻度推移 (出現率)

【言い換えの論点】

○[用例] に示した核実験などのような重大事項（他に、国家独立、捕鯨、森林伐採など）のほか、債務の支払い、社会人になることなど、猶予の対象となるものには、いくつかのタイプに分かれる。そうした対象のタイプに応じて言い換え語を使い分ける方が分かりやすい、という意見もあった。一方で、そうした多義をひとまとめにする言い換え語を提示する方が効果があるという意見もあった。対象のタイプの輪郭が明確な、「債務支払い猶予」のみは、[その他の言い換え語例] に示し、それ以外のタイプの言い換え語は、「猶予」にまとめるのが、分かりやすいと考えた。

154. モラルハザード moral hazard

「外来語」 言い換え提案（第2回）

	全体	60歳以上
モラルハザード	★☆☆☆	★☆☆☆
言い換え語	倫理崩壊	
用例	少年たちによる殺人事件の多発、 <u>倫理崩壊</u> モラルハザードが叫ばれる大人社会、自己中心性の肥大化など社会病理現象があらわになっている。	
意味説明	倫理観や道徳的節度がなくなり、社会的な責任を果たさないこと	

手引き

- ・本来は保険用語で、保険をかけてあるからと故意や不注意で事故を起こしてしまう危険性をいった。経済全般での倫理の欠如による行為に広がり、さらに経済以外の領域にも拡大して、使われている。

その他の言い換え語例

倫理欠如 倫理の欠如

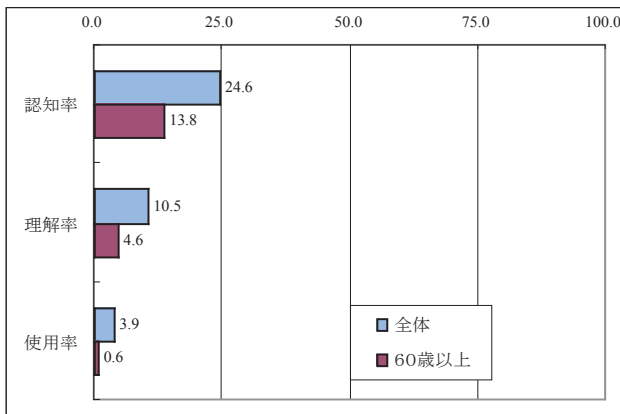
【調査データ】

図1 定着度（全体・60歳以上）%

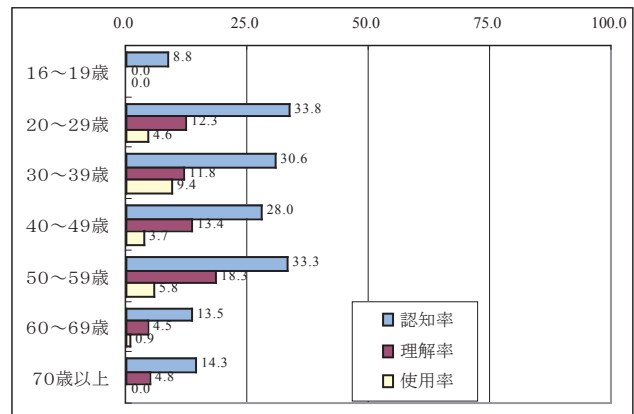


図2 定着度（年齢層別）%

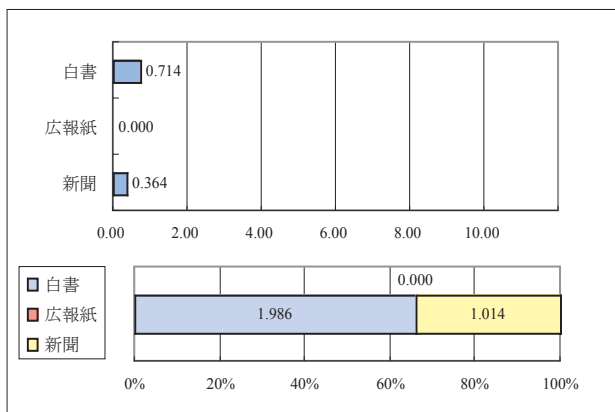


図3 公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

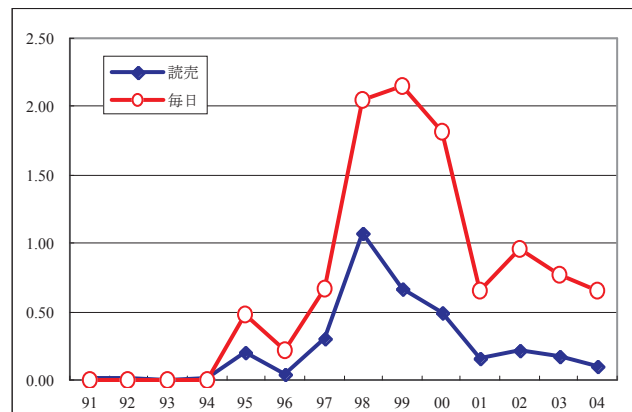


図4 新聞14年間の頻度推移 (出現率)

- 定着度はきわめて低い。認知率と理解率の乖離が大きい。
- 公共媒体における頻度は中程度だがどちらかといえば低い。白書への偏在度がやや高い。
- 新聞の頻度推移によると、1995年に登場し2000年頃まで増加する。その後急速に減少し2002年以後もゆるやかな減少の方向にある。

【背景事情】

- 新聞記事に1995年から登場するのは、公的資金を投入して金融機関の不良債権処理を行う政策に関して、金融機関のモラルハザードを招く、という文脈で用いられる用法である。「モラルハザード」の保険用語としての本来の意味を保っているこの用法が、その後の経済政策の継続とともに、数年間増加する。
- 上記の用法での使用が増加した後、経済上のことに限らず、広く一般的に倫理や道徳が崩壊して社会的な責任を果たせなくなることを表す用法が生じた。この用法は誤りだと指摘する意見も多いが、広範囲でよく使われているものであるため、転義を起こしたととらえるべきだと考えた。

【言い換えの論点】

○「倫理の欠如」などの語で説明が付けられたり、言い換えられたりしていることが多いが、やや分かりにくい上に、文脈の中で置き換えて使うことが難しいという問題があった。その点、「倫理崩壊」であれば、意味も明らかになり、文脈中で置き換えて使うことも比較的容易であるので、これを言い換え語とした。

155. ユニバーサルサービス universal service

「外来語」言い換え提案（第1回）

	全体	60歳以上
ユニバーサルサービス	★☆☆☆	★☆☆☆
言い換え語	全国一律サービス	
用例	荷受け窓口は全国31万カ所あり、 <u>全国一律サービス</u> 、 <u>ユニバーサルサービス</u> を果たせる	
意味説明	全国どこにいても一律に受けられるサービス	
手引き	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広く国民全般が公平に受けることのできるサービスという意味で、通信・郵便・放送などの事業について、1990年代半ばごろから一般に用いられるようになった。 ・ 郵政事業の民営化をめぐる議論の中で、全国どこにいても一律に受けられる郵便事業のサービスを指し、2004年ごろから「ユニバーサルサービス」の語と、「全国一律サービス」の言い換え語が、よく使われるようになった。 ・ 第1回「外来語」言い換え提案（2003年4月）では、「全国均質サービス」を〔言い換え語〕として提案した。サービスの品質に着眼して言い換えたい場合は、この語を用いることも考えられる。 	
その他の言い換え語例	全国均質サービス	

【調査データ】

- 定着度は低い。認知率と理解率の乖離が大きい。理解率と使用率の乖離もかなり大きい。
- 公共媒体における頻度は中程度だがどちらかといえば低い。白書への偏在度がやや高い。
- 新聞の頻度推移は、1990年代半ば以降増加傾向にある。1999年頃にいったん減少するが、2000年に再び増加する。

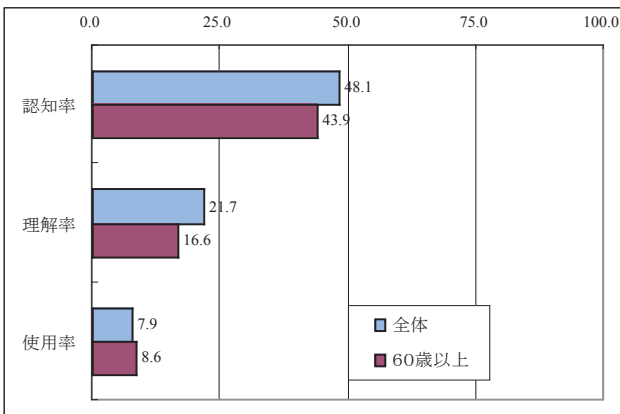


図1 定着度（全体・60歳以上）%

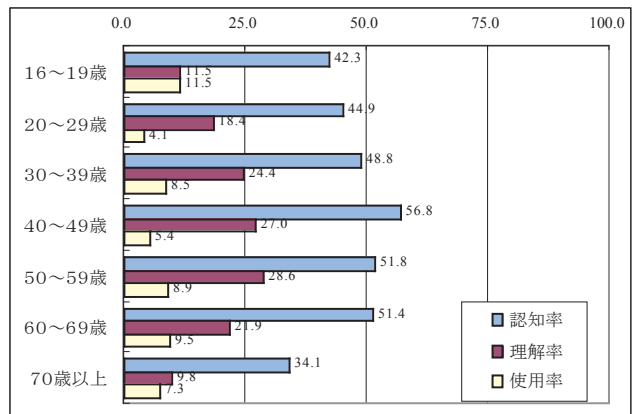


図2 定着度（年齢層別）%

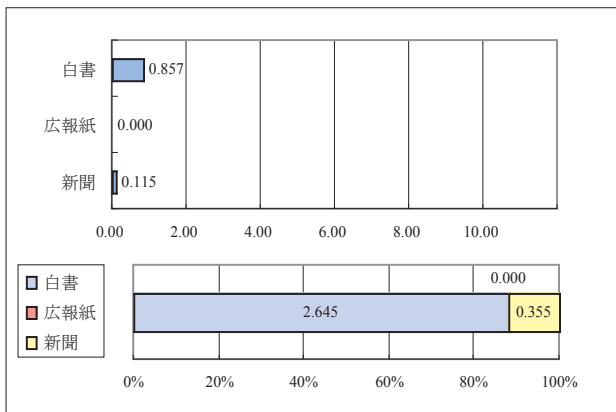


図3 公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

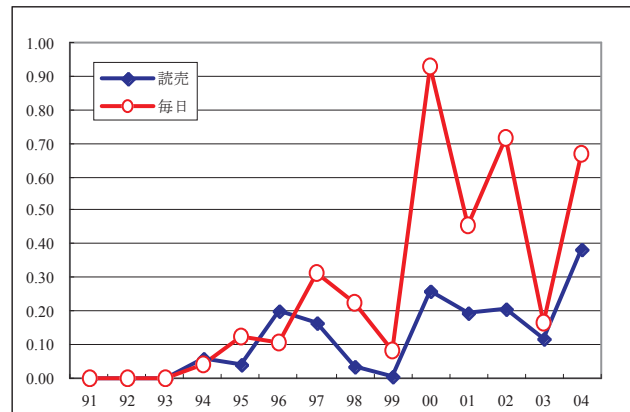


図4 新聞14年間の頻度推移(出現率)

【背景事情】

- 全国どこでも電話が通じるように通信網を張り巡らし、均一なサービスを提供しようという考え方を示す語として、1990年代半ばから郵政省やNTTなどが用いたものが、新聞などにも登場した。
- 2000年代になると、郵政事業の民営化の議論が本格化する中で、全国どこでも一律に受けられる郵便事業を指して使われる機会も増加した。

【言い換えの論点】

- 「全国一律サービス」という言い換え語は、2005年の郵政民営化の議論の中で、自ずと一般化した言い換え語であるが、通信業界では現在も「ユニバーサルサービス」の語を使うのが一般的である。しかし、定着度の低い語であるので、何についてのどんなサービスであるかが分かるような、言い換えや説明が必要であると考えた。

156. ユニバーサルデザイン universal design

「外来語」言い換え提案(第3回)

	全体	60歳以上
ユニバーサルデザイン	★★☆☆	★★☆☆
言い換え語	万人向け設計	
用例	道路空間における歩道や自転車道等の構造基準に万人向け設計の概念を導入するためのユニバーサルデザイン	
意味説明	障害者や高齢者なども含め、だれにでも使いやすい形に、設計すること	
手引き	<ul style="list-style-type: none"> ・「ユニバーサル」は「普遍的」、「デザイン」は「設計」の意味。「ユニバーサルデザイン」は、福祉の分野で使われ始め、2000年ごろから一般化を始めた。等生化(等しく生きる社会の実現)を意味する「ノーマライゼーション」[⇒104]の考え方の普及と合わせて、重要な考え方になると思われる。 ・障壁を取り除き、だれにとっても使いやすい状態にしていくことを表す考え方が「バリアフリー」[⇒117]である。「ユニバーサルデザイン」は、初めからだれにとっても使いやすい設計にすることを強調する考え方を指す。 ・「バリアフリー」が定着を深めていきつつあるのに対して、「ユニバーサルデザイン」は十分に定着しておらず、言い換えや説明付与の必要性は高い。 	

- ・「だれにでも使いやすい設計」などと、より分かりやすい言葉で言い換えたり説明を付与したりすることも、効果的である。
- ・「UD」という略語が用いられることがあるが、分かりにくい。

【その他の言い換え語例】 だれにでも使いやすい設計

【調査データ】

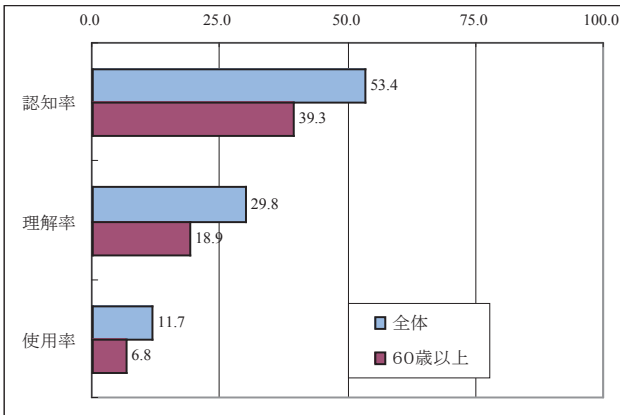


図1 定着度（全体・60歳以上）%

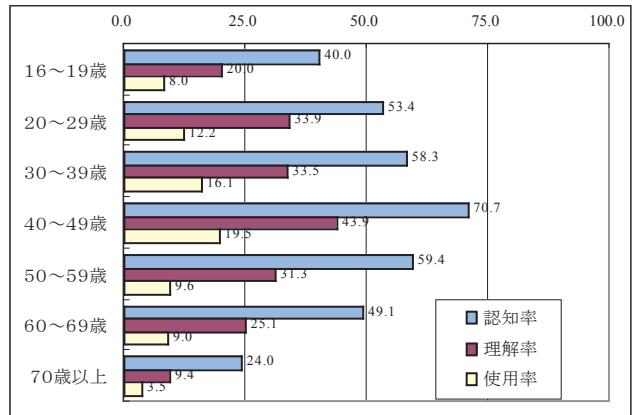


図2 定着度（年齢層別）%

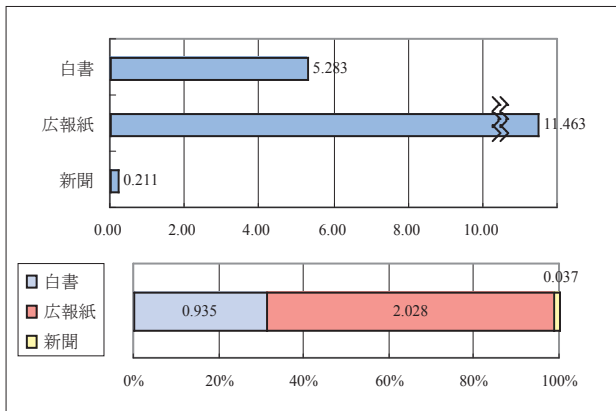


図3 公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

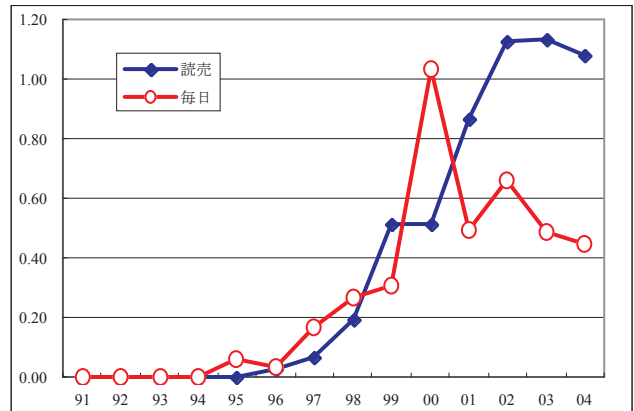


図4 新聞14年間の頻度推移 (出現率)

- 定着度はやや低い。理解率と使用率の乖離がかなり大きい。40歳代が高い。
- 公共媒体における頻度は高い。広報紙への偏在度がやや高い。
- 新聞の頻度は、1990年代後半から増加傾向にあり、2003年以後は横ばいとなっている。

【背景事情】

○1990年代半ばからの「バリアフリー」の概念の普及を迫るようにして、1990年代後半から「ユニバーサルデザイン」の概念が普及し始めた。既にある障壁を除去するという考え方が強い「バリアフリー」に比べて、はじめから障壁のないものを作ろうとする考え方を強調する側面が「ユニバーサルデザイン」にはある。新聞の頻度では、特に2000年以後の増加が顕著であるが、このころからユニバーサルデザインをうたった商品開発が盛んになったことを反映している。

【言い換えの論点】

○「バリアフリー」の後を追って普及が進んでいるが、現在のところ定着は不十分である。「ユニバーサルデザイン」の語自体の意味が、「バリアフリー」に比べて分かりにくいので、いっそうの普及と定着を果たすためには、言い換えや説明の工夫が不可欠であると考えられる。

○直訳である「万人向け設計」では、「ユニバーサルデザイン」の理念を十分伝えられない、という意見が、外部から多く寄せられた。理念を単純化した「配慮設計」「気配り設計」などの意識を言い換え語とすべきかどうかを、委員会で議論した。しかし、万人に使える設計を目指すことによって、障害者や高齢者に配慮した設計になるのであって、「配慮」や「気配り」の語では、概念の核心が消えてしまうと考えた。

→参照 アクセシビリティ、ノーマライゼーション、バリアフリー

157. ライフサイクル life cycle

「外来語」言い換え提案（第1回）

	全体	60歳以上
ライフサイクル	★★★★☆	★★☆☆☆
言い換え語	生涯過程	
用例	基礎年金は一元化し、それ以外は各人の生涯過程に合わせた積み立て方式を目指すべきだ。	
意味説明	生まれてから死ぬまでの過程	
手引き	<ul style="list-style-type: none"> ・人や生物の生涯をいう場合と、製品の製造から廃棄までをいう場合とがある。 ・「ライフサイクルを通じて」のように過程全体を問題にするときは「一生涯」と言い換えることもできる。製品の生涯を言う場合は、「循環過程」と言い換えることもできる。 	
その他の言い換え語例	一生涯 循環過程	
複合語例	ライフサイクルアセスメント = 製品の循環過程における環境影響評価 ライフサイクルコスト = 製品の生涯費用 製造から廃棄までの費用	

【調査データ】

- 定着度は中程度だがどちらかといえば高い。
- 公共媒体における頻度は中程度だがどちらかといえば高い。白書への偏在度がきわめて高い。
- 新聞の頻度推移は、読売新聞でやや減少の方向があるが、毎日新聞では増減の方向はない。

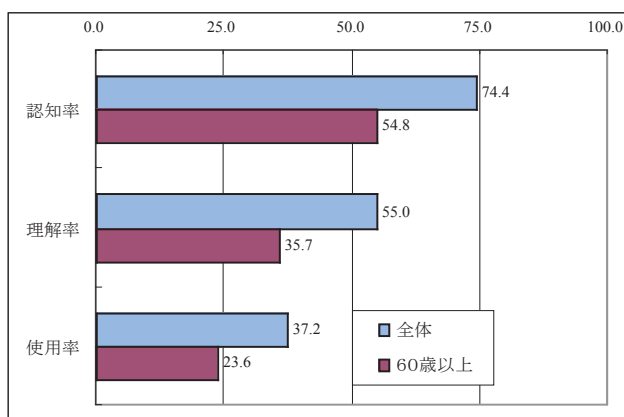


図1 定着度（全体・60歳以上）%

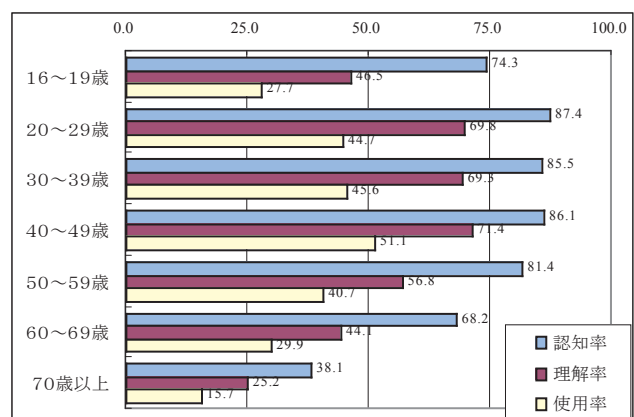


図2 定着度（年齢層別）%

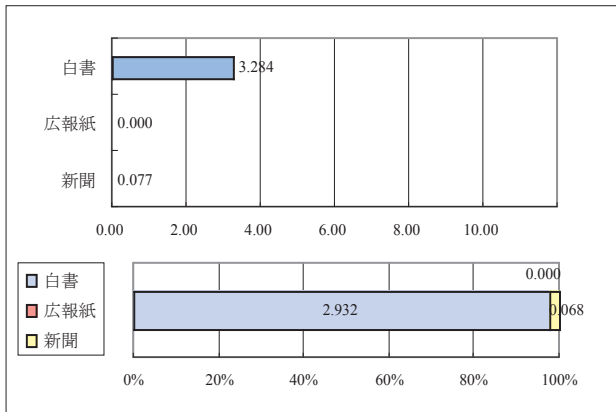


図3 公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

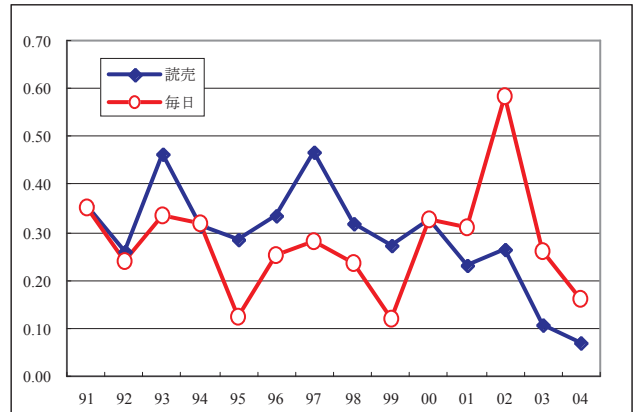


図4 新聞14年間の頻度推移(出現率)

【言い換えの論点】

○「生涯」「一生」などで十分言い換えられるという意見と、「過程」に重点を置いた言い換えが必要という意見があった。人や生物の場合は「生涯過程」、商品の場合は「商品過程」として、「過程」を共通に持つ言い換え語のセットが分かりやすいと考えた。人や生物の場合を基本におき、言い換え語は「生涯過程」とし、文脈によっては過程全体をとらえている「一生涯」と言い換えることの効果も、[手引き]に記した。

158. ライフライン lifeline

「外来語」言い換え提案(第1回)

	全体	60歳以上
ライフライン	★★★★☆	★★★☆☆
言い換え語	生活線	
用例	震災時に火災やライフラインの寸断を体験し、池の水が初期消火や生活用水にも利用できると確信。	
意味説明	生活に不可欠な水道・ガス・電気などの供給路	
手引き	<ul style="list-style-type: none"> 水道・ガス・電気などを供給する仕組みを、生活になくてはならないものにとらえて言う語。災害に関して話題にされる。 命をつなぐものとして言う場合は「生命線」、これを比喩的に言う場合は「命綱」、水道・ガス・電気などの供給路であることを言う場合は、「光熱水路」などと、言い換えることもできる。 定着に向かっている語だと思われ、「ライフライン」をそのまま用いることにさほど問題のない場面も多いと思われる。ただし、60歳以上では半数以上が分からない語であり、言い換えや説明付与が望まれる場合も多い。 	
その他の言い換え語例	生命線 命綱 光熱水路	

【調査データ】

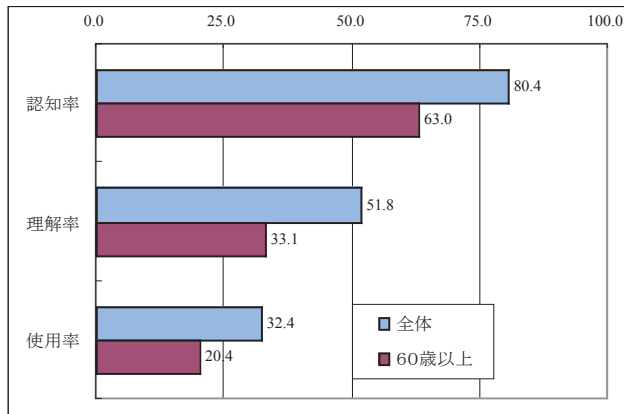


図1 定着度（全体・60歳以上）%

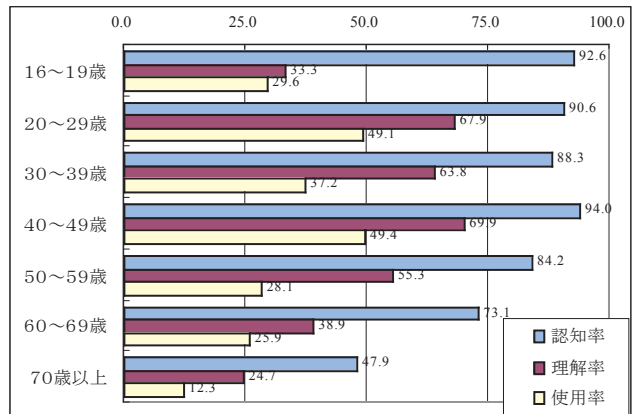


図2 定着度（年齢層別）%

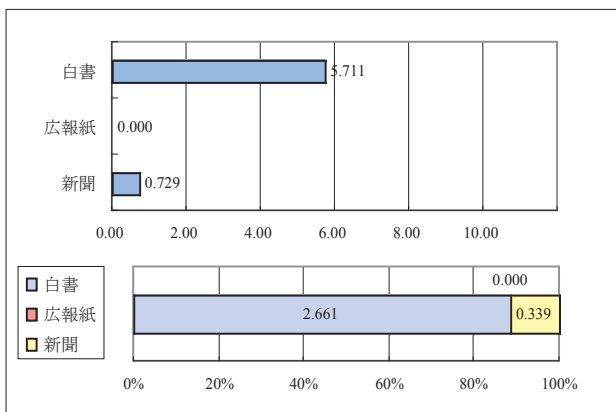


図3 公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

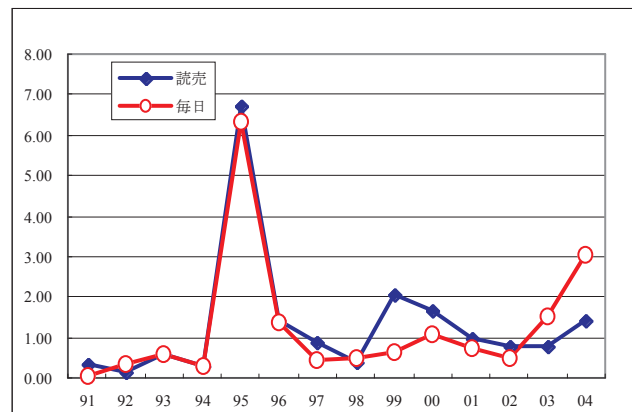


図4 新聞14年間の頻度推移(出現率)

- 定着度は中程度だがどちらかといえば高い。認知率と理解率の乖離が大きい。
- 公共媒体における頻度はやや高い。白書への偏在度が高い。
- 新聞の頻度は、1995年が突出する。この年は、阪神淡路大震災のあった年であり、災害報道の中で、非常によく使用された。

【背景事情】

- 1995年の阪神淡路大震災の報道でよく使われたことをきっかけとして、一般に普及し、定着に向かったと考えられる。

【言い換えの論点】

- 直訳して「生命線」と言い換えるのが分かりやすいという強い意見があったが、一方で、手相の生命線と衝突することを問題視する強い意見とがあった。そこで、これまであまり使われた実績がなく、「ライフライン」との対応付けに違和感の小さい「生活線」を言い換え語とすることとした。「生命線」や「命綱」も、比喩の喚起する意味が分かりやすいので、[その他の言い換え語例]に掲げた。

159. ライブラリー library

「外来語」言い換え提案（第2回）

ライブラリー 全体 ★★★☆ 60歳以上 ★★★☆☆

言い換え語 図書館

用例 住宅の専門書、雑誌を集めた^{図書館}ライブラリーも設置されている。

意味説明 図書などの資料を収集し閲覧に供する施設

手引き

- ・ 図書以外を収蔵する施設に用いられることも多いが、指し示すものに応じて、「ビデオ図書館」などのように、収蔵する対象を明示するとよい。また、「図書館」が使いにくい場合は、「資料館」あるいは、収蔵する対象を「〇〇」に明示して、「〇〇資料館」などと言い換えるとよい。
- ・ 収集したり閲覧に供したりする機能に着眼する場合は、「収蔵館」「閲覧所」と言い換えることもできる。
- ・ 個人的な蔵書を収蔵する場所を指す場合は「書庫」、図書のシリーズを指す場合は「^{そうしよ}叢書」と言い換えられる。
- ・ 「アーカイブ」[⇒1]が、記録や資料を長期に保存するためのものであるのに対して、「ライブラリー」は、図書をはじめとする資料を収集し閲覧に供するためのもの。対象物や目的に応じて言い換え語を工夫したい。
- ・ 定着に向かっている語だと思われ、「ライブラリー」をそのまま用いることにさほど問題のない場面も多いと思われる。ただし60歳以上では、半数以上が分からない語であり、言い換えや説明付与が望まれる場合も多い。

その他の言い換え語例 資料館 収蔵館 閲覧所 書庫 ^{そうしよ}叢書

【調査データ】

- 定着度は中程度だがどちらかといえば高い。年齢層による差異が大きい。60歳代が低い。
- 公共媒体における頻度はやや高い。広報紙への偏在度がやや高い。
- 新聞の頻度推移は、全体としてほぼ横ばいであるが、若干減少の方向にある。

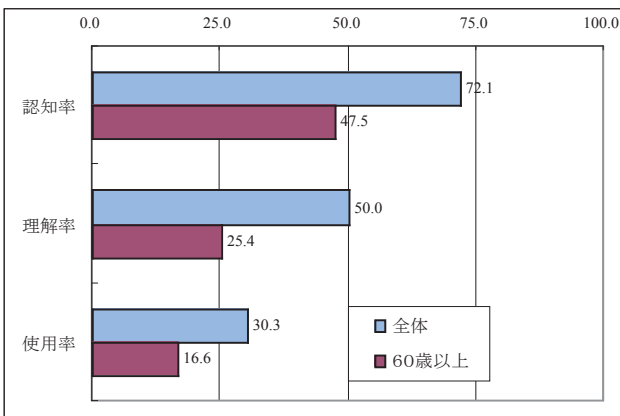


図1 定着度（全体・60歳以上）%

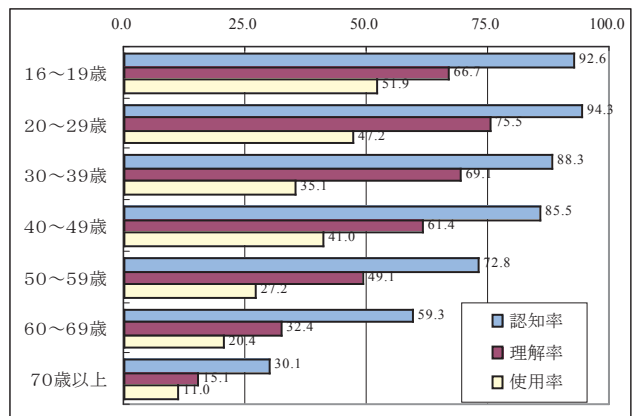


図2 定着度（年齢層別）%

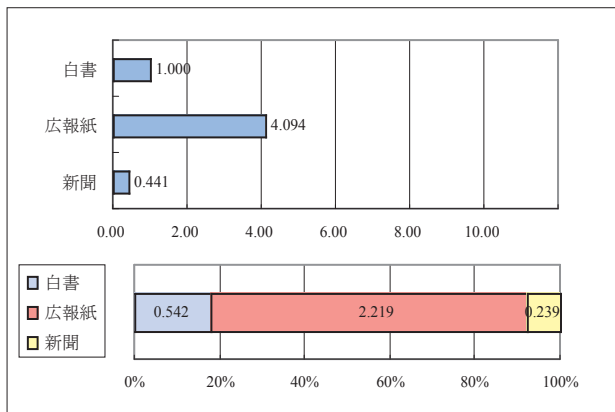


図3 公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

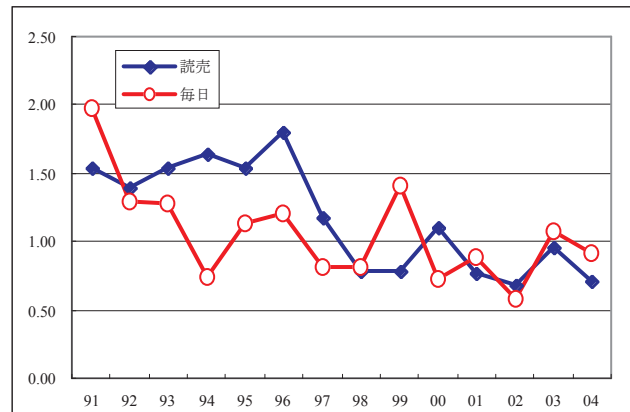


図4 新聞14年間の頻度推移(出現率)

【言い換えの論点】

○ 図書以外を対象とする施設は「資料館」などの語で言い換えるのがよいという意見と、それらも含めて、「ライブラリー」と呼ばれるものは「図書館」と言い換えるのがよいという意見とがあった。例えば、「ビデオライブラリー」は「ビデオ資料館」「ビデオ図書館」のどちらがよいかという点である。基本的に後者の意見を採用することとして、「図書館」の語が使いにくい場合に使える言い換え語を、[その他の言い換え語例]に示した。

→参照 アーカイブ

160. リアルタイム real time

「外来語」言い換え提案(第2回)

	全体	60歳以上
リアルタイム	★★★★☆	★★★☆☆
言い換え語	即時	
用例	通信衛星の利用によって運搬処理車の位置など廃棄物の処理状況をリアルタイムに把握できるため、不法投棄の防止にもつながるといふ。	
意味説明	二つの事柄の間に、時間のずれがないこと	
手引き	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門分野では「実時間」と言い換えられることがあるが、一般に対してはやや分かりにくい。「即時」のほか、文脈によっては、「同時」あるいは「同時進行」の言い換え語が適切になる場合もある。 ・ 「リアルタイムで」は「即時に」「同時に」「同時進行で」、「リアルタイムな」は「即時の」「同時進行の」と言い換えられる。 ・ 定着に向かっている語だと思われ、「リアルタイム」をそのまま用いることにさほど問題のない場面も多いと思われる。ただし60歳以上では、半数以上が分からない語であり、言い換えや説明付与が望まれる場合も多い。 	
その他の言い換え語例	同時 同時進行 実時間	

【調査データ】

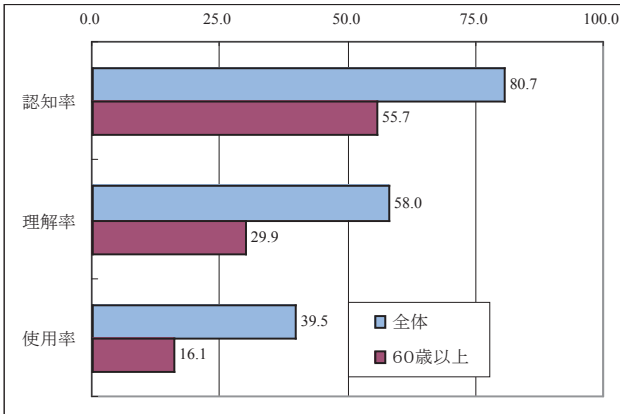


図1 定着度（全体・60歳以上）%

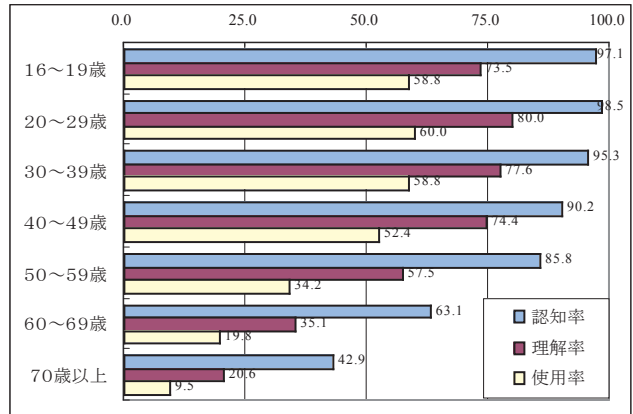


図2 定着度（年齢層別）%

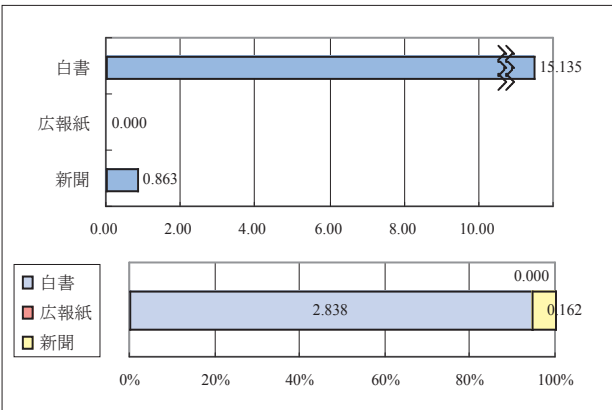


図3 公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

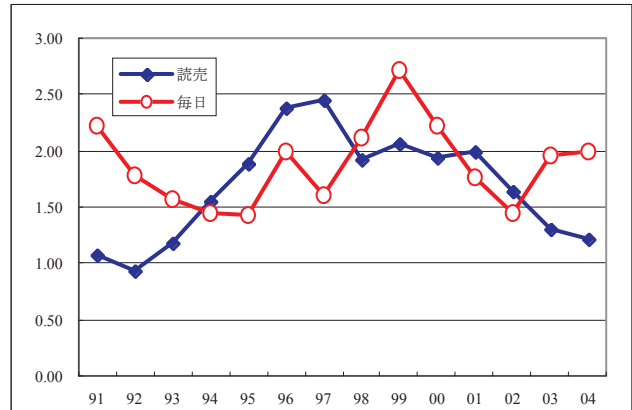


図4 新聞14年間の頻度推移(出現率)

- 定着度は中程度だがどちらかといえば高い。年齢層による差異が大きい。60歳代が低い。
- 公共媒体における頻度は高い。白書への偏在度がきわめて高い。
- 新聞の頻度は、1990年代後半にかけて増加の方向にあるが、2000年代は減少の方向に転じる。

【言い換えの論点】

○ 言い換え語を「同時」とするか「即時」とするかで意見が分かれた。前者は、「リアルタイム」は、時間のずれがないという意味であるのに対して、「即時」は時間のずれが少しあるので不適切、「同時」の方が適切という意見。後者は、「リアルタイム」の持つ、時間のずれなくぴったりという意味は、「即時」の意味そのものであり、「同時」は意味が広すぎて不適切、という意見。「リアルタイム」の意味の中核に、時間のずれがなく遅れずという意味があると考え、「即時」の方が適切だと考えた。文脈上「同時」と言い換えた方が分かりやすくなる場合もあるので、[その他の言い換え語例]に、これを加えた。

→参照 タイムラグ

161. リードタイム lead time

「外来語」言い換え提案（第4回）

全体 ★☆☆☆
60歳以上 ★☆☆☆

リードタイム 事前所要時間

言い換え語 事前所要時間

用例 開発から製造までのリードタイムを短縮することは、製造業にとって極めて重要な課題であるが

意味説明

企画から生産開始まで、発注から納品までといった、事業の本格的展開の前に要する時間

手引き

・何に要する期間であるかを示して、「企画から生産開始までに要する期間」などと説明的な言い方をしたり、「調達期間」「製造期間」「開発期間」などと言い換えたりする方が分かりやすい場合もある。

その他の言い換え語例 調達期間 製造期間 開発期間

【調査データ】

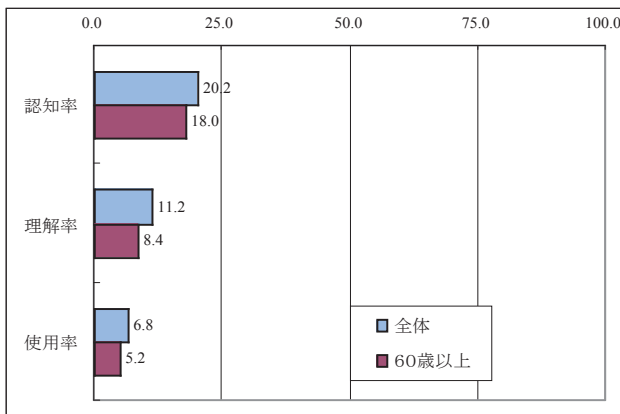


図1 定着度（全体・60歳以上）%

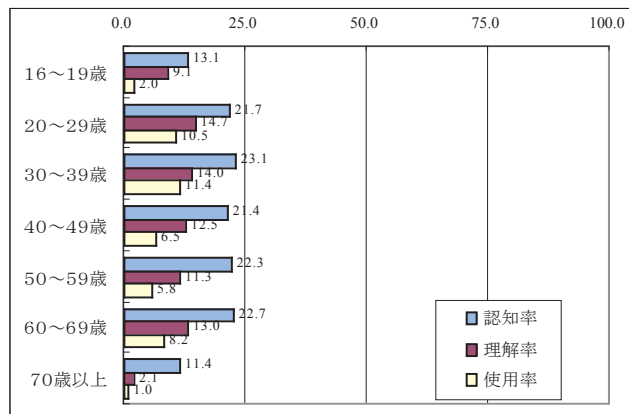


図2 定着度（年齢層別）%

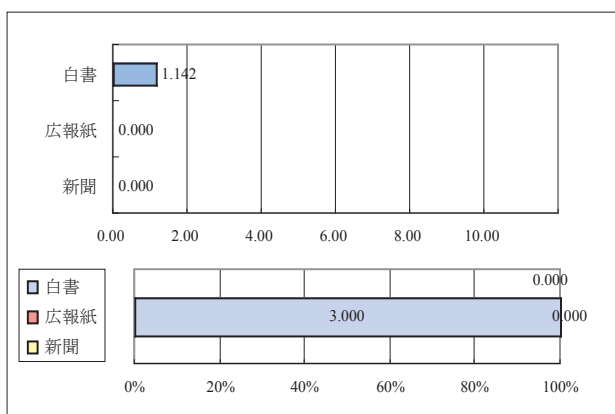


図3 公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

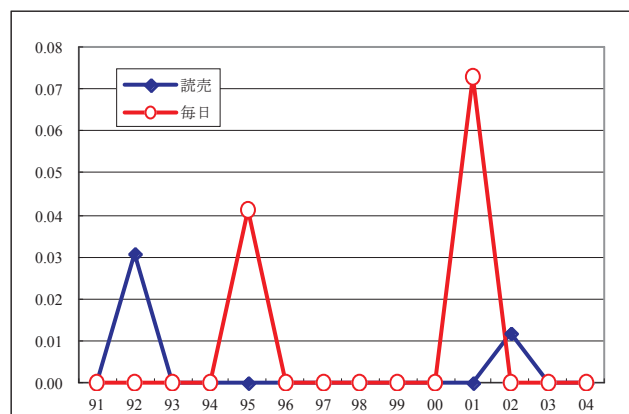


図4 新聞14年間の頻度推移 (出現率)

- 定着度はきわめて低い。
- 公共媒体における頻度は中程度だがどちらかといえば低い。白書への偏在度がきわめて高い。
- 新聞の頻度はきわめて低いため、増減の傾向を見ることはできない。

【言い換えの論点】

○「リードタイム」は、生産者側、業界側に視点がある言葉で、消費者側には分かりにくい。「事前所要時間」の語では言い換えにくい場合は、説明を加えたり、何に要する時間かを示した言い換え語を使う工夫が考えられることについて、[手引き]に記した。

162. リーフレット leaflet

「外来語」言い換え提案（第1回）

	全体	60歳以上
リーフレット	★☆☆☆	★☆☆☆
言い換え語	ちらし	
用例	ポスター及び ^{ちらし} リーフレットを作成・配布するとともに	
意味説明	宣伝や案内などの目的で配布される、多くは一枚刷りの印刷物	
手引き	<ul style="list-style-type: none"> ・現状では、意味の分かっている人は少ない語。不特定多数の人を相手にする場合は、言い換えが望まれる。 ・「リーフレット」と「ちらし」とでは、指すものが違い、「ちらし」とは言い換えにくい場合は、形状や記載内容に応じて、[その他の言い換え語例]に示す語を使い分けることも考えられる。 	
その他の言い換え語例	パンフレット 手引き 案内	

【調査データ】

- 定着度は低い。
- 公共媒体における頻度は中程度だがどちらかといえば高い。白書への偏在度が高い。
- 新聞の頻度推移は、読売新聞にのみ1999年から2002年までの山があり、毎日新聞は全体を通してほぼ横ばいである。2紙のこの違いは、読売新聞データが1999年から地方版を含むのに対して、毎日新聞がこれを含まないことによるものと考えられる。「リーフレット」の語の使用は、地方版に多い。

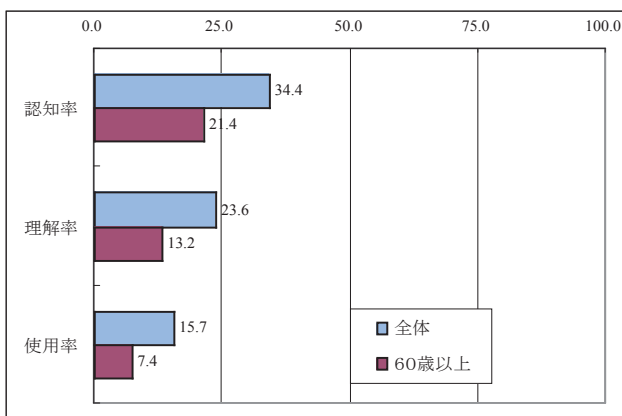


図1 定着度（全体・60歳以上）%

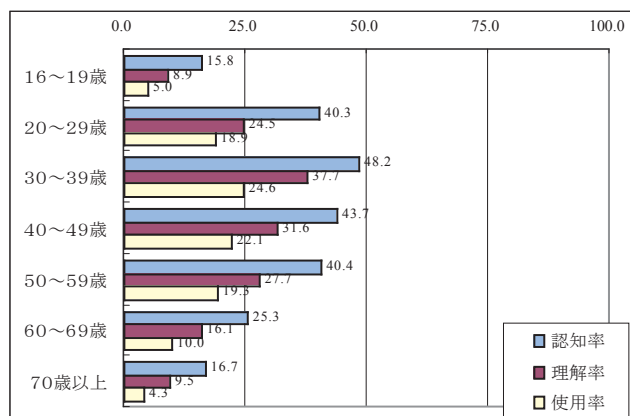


図2 定着度（年齢層別）%

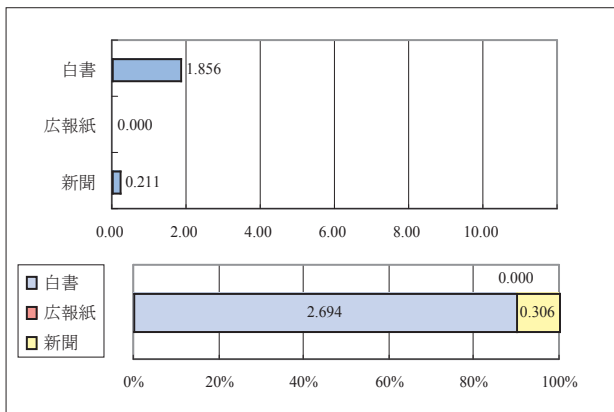


図3 公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

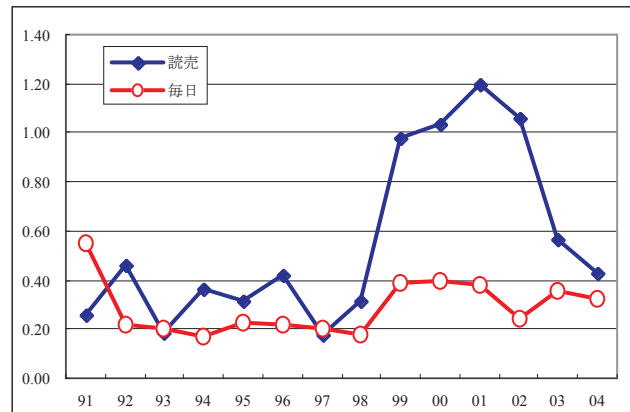


図4 新聞14年間の頻度推移(出現率)

【言い換えの論点】

○従来ある「ちらし」とは指すものが違うので、言い換えにくいという意見も強かった。その場合は、記載されている内容に着目して、「案内」「手引き」などと言い換える工夫が考えられることを、[手引き]に記した。

163. リターナブル returnable

「外来語」言い換え提案(第4回)

	全体	60歳以上
リターナブル	★☆☆☆	★☆☆☆
言い換え語	回収再使用	
用例	回収再使用 容器の <u>リターナブル</u> がどうあるべきかを考える。	
意味説明	一度使った容器などが回収洗浄され、もう一度使える様子	
手引き	<ul style="list-style-type: none"> 文脈によっては、「回収して再使用できる」あるいは単に「再使用できる」「回収できる」などと言い換えたり、説明を付与したりするのが分かりやすい場合もある。 「リターナブル瓶」という形で用いられることが多いが、「再使用瓶」「回収瓶」などと言い換えるのが分かりやすい。 類似の語に「リユース」[⇒168]があり、「リユース」が再使用することを広く表すのに対し、「リターナブル」は、回収して再使用すること、あるいは再使用できる様子を表す。ただし、「リターナブル瓶」「リユース瓶」、「リターナブル容器」「リユース容器」という場合など、両者が同じような意味で用いられることもある。 「リターナブル瓶」の反意語に、一回だけ使用して再使用されない瓶を指す「ワンウェイ瓶」があるが、「一回瓶」「使い捨て瓶」などと言い換えることができる。「一回瓶」はそのまま再使用されることはないが、中には再生利用されるものもある。 容器などの回収再使用を効率的に進めるために、あらかじめ容器代を預かっておき回収時に払い戻す制度(デポジット制度)も、試みが始まっている。「デポジット」[⇒95]は「預かり金」と言い換えることができる。 	
その他の言い換え語例	回収して再使用できる 再使用できる 回収できる	
複合語例	リターナブル瓶 = 再使用瓶 回収瓶	

【調査データ】

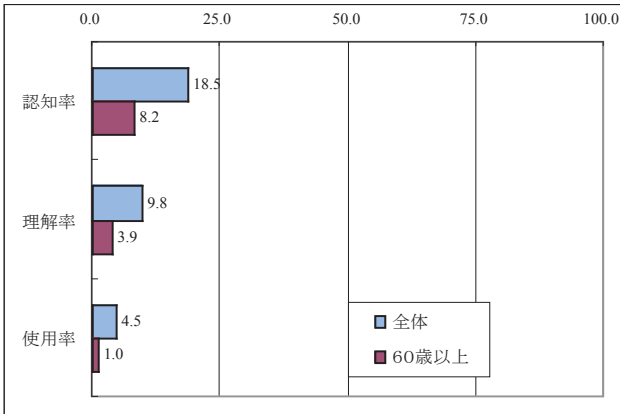


図1 定着度（全体・60歳以上）%

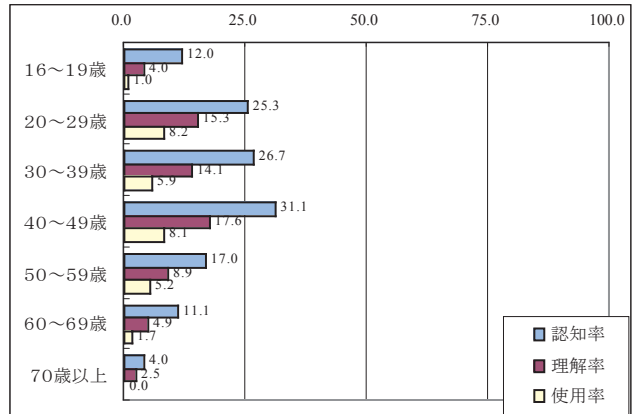


図2 定着度（年齢層別）%

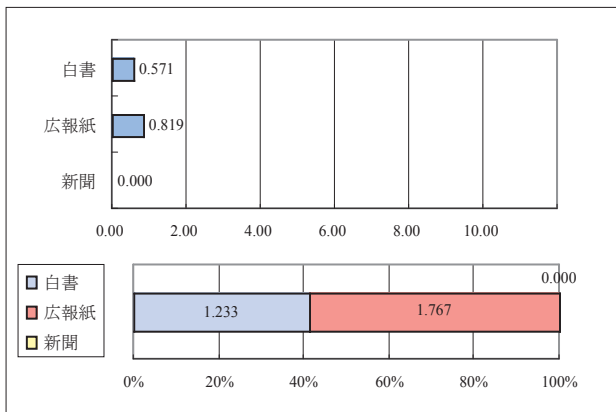


図3 公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

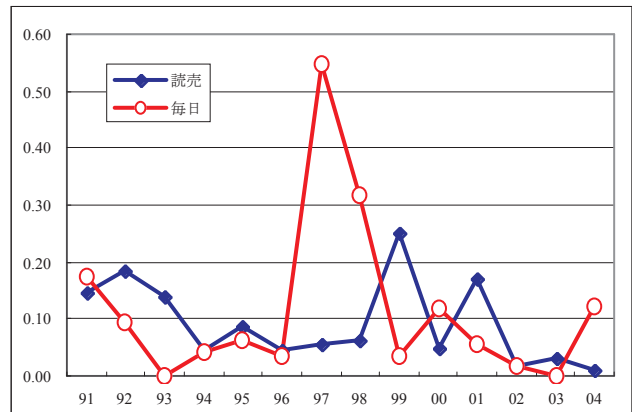


図4 新聞14年間の頻度推移(出現率)

- 定着度はきわめて低い。
- 公共媒体における頻度は中程度だがどちらかといえば低い。
- 新聞の頻度は、毎日新聞の1997年が突出しているが、ある日の特集記事で「リターナブル瓶」がテーマに取り上げられたことによるものである。それ以外は、全体に低頻度で増減の方向は見えない。

【言い換えの論点】

- 類義語の「リユース」、反義語の「ワンウェイ」などともに、概念の整理ができる言い換えや説明を行う工夫が望まれる。「リユース」とは、「再使用」という点で通じるが、「回収」が加わるのが、「リターナブル」の特徴である。「回収」するか「一回」限りかという点で、「ワンウェイ(瓶)」と対立する。これら「再使用」「回収」「一回」の語を生かした言い換え語で、概念を整理することを試みた。

→参照 デポジット, リユース

164. リデュース reduce

「外来語」言い換え提案（第4回）

リデュース	全体 ★☆☆☆	60歳以上 ★☆☆☆
言い換え語	ごみ発生抑制	
用例	北九州市は ^{ごみ発生抑制} リデュースの取り組みを始めた。	
意味説明	ごみになるものの発生を抑制すること	
手引き	<ul style="list-style-type: none"> ・英語のreduceは、減らすことを意味するが、外来語「リデュース」は、環境分野で、ごみを減らすことを意味する語として取り入れられた。 ・天然資源の消費を抑え環境への負担を減らす循環型社会の実現に向け、国が策定した「循環型社会形成推進基本計画」（2003年）に、廃棄物の発生を抑制する「リデュース」、使用済みの製品を再使用する「リユース」[⇒168]、廃棄物を原材料にして別の製品を作る「リサイクル」の三つが、「3R」としてうたわれている。 ・「3R」を話題にする場合も、「リデュース（ごみ発生抑制）」「リユース（再使用）」「リサイクル（再生利用）」などのように説明を付けたり、言い換えたりする配慮が望まれる。 ・「リユース（再使用）」や「リサイクル（再生利用）」が、再び使うための処理の過程で環境に負担をかけるのに対して、「リデュース（ごみ発生抑制）」は、ごみになるもの自体の発生を抑えるものである。環境に対して負担をかけない「リデュース（ごみ発生抑制）」は、循環型社会実現のための「3R」の取組の中では、最も優先度が高いと言える。 ・「廃棄物の発生抑制」「ごみの減量」「ごみを減らすこと」「ごみをなるべく出さないこと」のように、説明的な語句を用いるのも分かりやすい。 	
その他の言い換え語例	発生抑制 廃棄物の発生抑制 ごみの減量 ごみをなるべく出さないこと	

【調査データ】

- 定着度はきわめて低い。
- 公共媒体における頻度は中程度だがどちらかといえば高い。白書への偏在度がやや高い。
- 新聞の頻度推移は1990年代末以降、やや増加の方向にある。

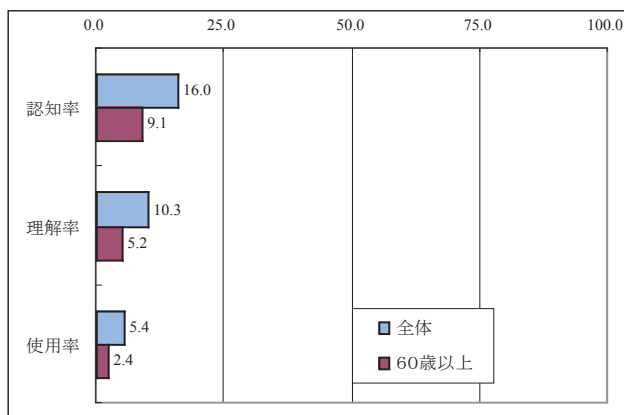


図1 定着度（全体・60歳以上）%

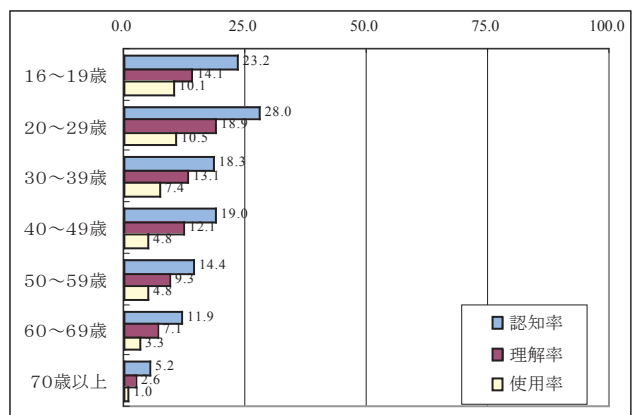


図2 定着度（年齢層別）%

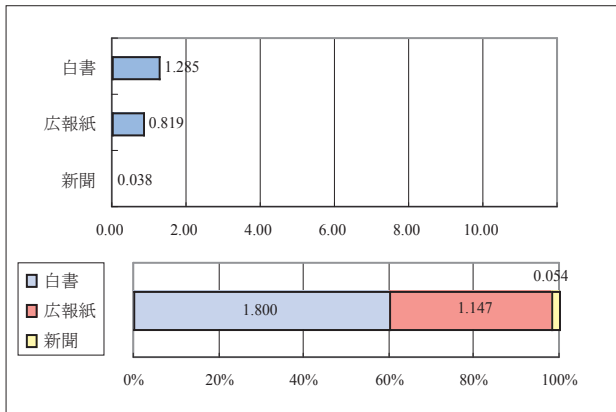


図3 公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

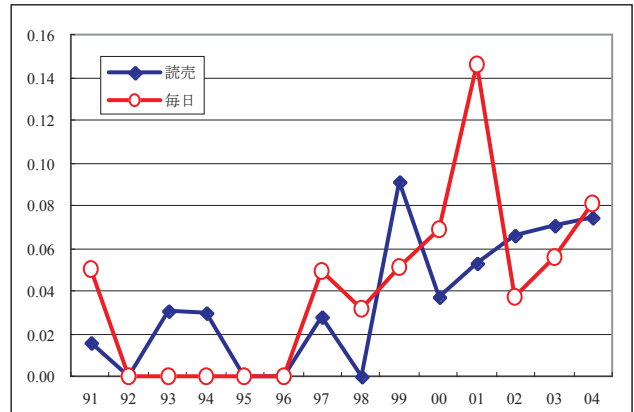


図4 新聞14年間の頻度推移(出現率)

【背景事情】

○天然資源の消費を抑え、環境への負担を減らす政策として、従来は「リサイクル」の推進がうたわれていたが、「リデュース」「リユース」「リサイクル」の「3R」の推進がうたわれるようになった。2003年の「循環型社会形成推進基本計画」に盛り込まれた。

【言い換えの論点】

○「3R」のなかで最も後発の語であり、それだけ普及の度合いも低い。原語の意味は「減らすこと」であるが、ごみの発生を抑えることが分かる言い換え語を用いることが、効果的であると考えた。

→参照 リユース

165. リテラシー literacy

「外来語」言い換え提案(第3回)

	全体	60歳以上
リテラシー	★☆☆☆	★☆☆☆
言い換え語	読み書き能力 活用能力	
用例	<p>日本はもともとリテラシーの<u>読み書き能力</u>の高い国。問題なのは、活字は読めるが、読書をしないことだ。</p> <p>答申は、インターネットなどITが進み活用範囲が広がることで、国民の学習機会や意欲が高まることとが期待できるとし、<u>情報活用能力</u>、<u>情報リテラシー</u>を身に着けることが重要と提言。</p>	
意味説明	情報を的確に読み解き、またそれを活用するために必要な能力	
手引き	<ul style="list-style-type: none"> 元来は読み書き能力のことであるが、現代では情報を読み解き活用する能力の意味で使われることが多い。 活用することよりも読み解くことに重点のある場合は、「読み解き能力」と言い換えることもできる。 何を活用するかが分かりにくい場合は、「情報活用能力」などのように、活用するものを示す語を前に添えて言い換えるのも、効果的である。 	
その他の言い換え語例	読み解き能力 情報活用能力	

複合語例

情報リテラシー = 情報活用能力
 メディアリテラシー = メディア活用能力 情報活用能力
 グローバルリテラシー = 国際対話能力
 コンピューターリテラシー = コンピューター活用能力

【調査データ】

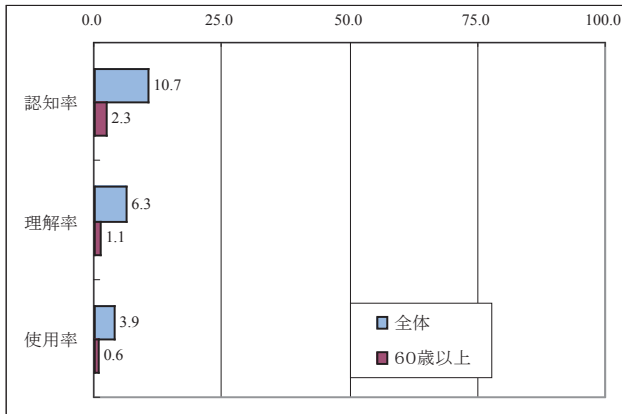


図1 定着度 (全体・60歳以上) %

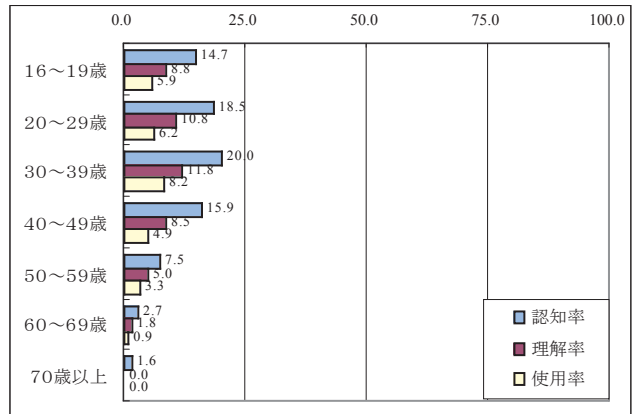


図2 定着度 (年齢層別) %

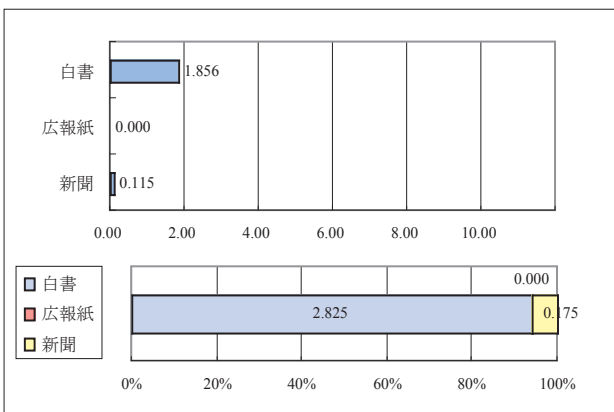


図3 公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

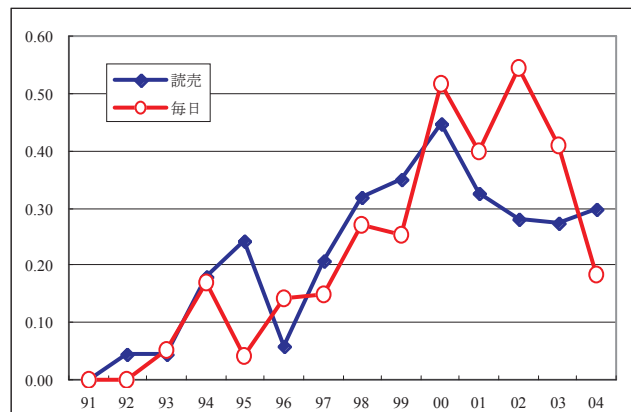


図4 新聞14年間の頻度推移 (出現率)

- 定着度はきわめて低い。
- 公共媒体における頻度は中程度だがどちらかといえば高い。白書への偏在度がきわめて高い。
- 新聞の頻度推移は、2000年頃まで増加し、2003年頃から減少に転じる。

【背景事情】

- 2000年頃までの頻度の増加は、「メディアリテラシー」「情報リテラシー」の語の増加によるもので、2002年以後の減少も、この二つの語の減少によるものである。
- 「メディアリテラシー」「情報リテラシー」ともに、学術・教育の分野ではよく使われるが、一般への浸透は弱い。白書への偏在度の高さも、専門性の高さをものがたるものである。

【言い換えの論点】

- 「リテラシー」の意味概念は、[意味説明]に記した通りで問題ないと考えられるが、これを的確に表せる一語を定めるのは、難しい。従来の訳語「識字」は、その意味を伝えるには不適切だと考えた。「活用能力」も、その意味を過不足なく伝えるのには十分ではないが、部分的には伝えられると考え、これを言い換え語とした。

166. リニューアル renewal

「外来語」言い換え提案（第1回）

リニューアル	全体 ★★★☆	60歳以上 ★★★☆☆
言い換え語	刷新	
用例	老朽化した施設や遊覧船の <u>リニューアル</u> などで利用客減少の歯止めを図ることにし、	
意味説明	新しく作り直して再生させること	
手引き	<ul style="list-style-type: none"> ・動詞として使われる場合も多く、「刷新する」が言い換え語になる。 ・新しくする対象によって、様々な言い換えを工夫することもできる。建物などは「改装」「新装」、抽象的な事柄には「一新」などと、使い分けるとよい。 ・定着に向かっている語だと思われ、「リニューアル」をそのまま用いることにさほど問題のない場面も多いと思われる。ただし、60歳以上では半数以上が分からない語であり、言い換えや説明付与が望まれる場合も多い。 	
その他の言い換え語例	改装 新装 一新	
複合語例	リニューアルオープン = 新装開店 新装開館	

【調査データ】

- 定着度はやや高い。年齢層による差異が大きい。60歳代が低い。
- 公共媒体における頻度はやや高い。
- 新聞の頻度推移は全体に増加の方向にある。読売新聞では2003年以後減少している。

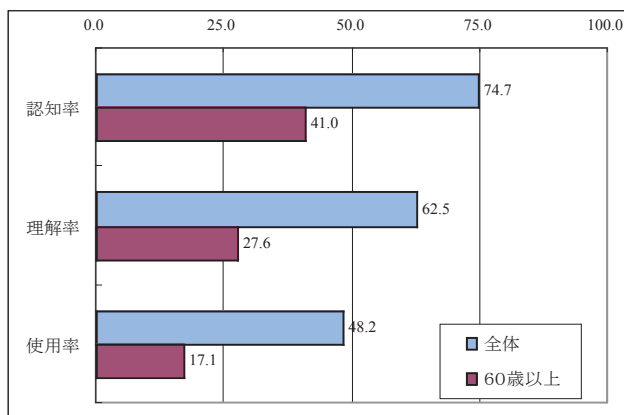


図1 定着度（全体・60歳以上）%

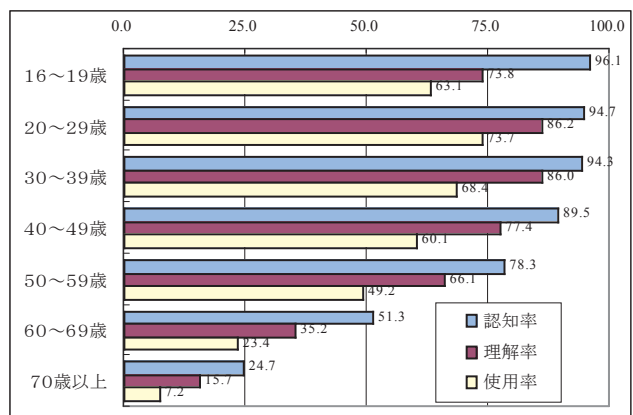


図2 定着度（年齢層別）%

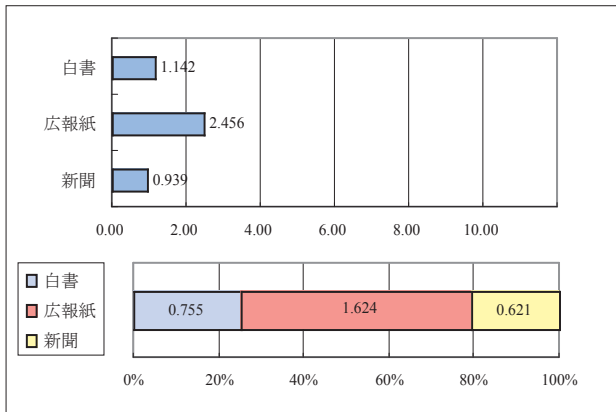


図3 公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

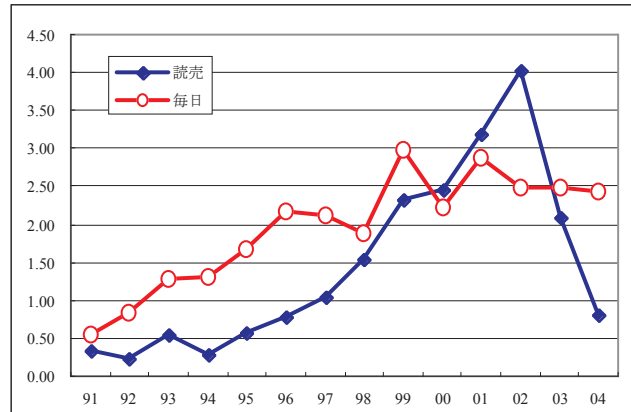


図4 新聞14年間の頻度推移(出現率)

【言い換えの論点】

○新しくする対象に応じて、「改装」「新装」「一新」を使い分けることが効果的な場合も多い。様々な対象に広く適用できる言い換え語としては、「刷新」が最適であると考えた。使い分けの効果は[手引き]に記した。

167. リバウンド rebound

「外来語」言い換え提案(第4回)

	全体	60歳以上
リバウンド	★★★☆☆	★★☆☆☆
言い換え語	揺り戻し	
用例	薬をやめると リバウンド があるので、一度にやめないで、医師と相談して量を減らしながら様子を見ていくのが良い。	
意味説明	ある方向に進んでいたものが、もとの方向に戻ることを指す。	
手引き	<ul style="list-style-type: none"> ・「リバウンド」は、服薬や減量において、よりよい方向に向かっていていたものが、反対に悪い方向に戻ってしまうことを指して使われることが多い。 ・言い換え語「揺り戻し」の「揺り」は、揺さぶる意味の動詞「揺る」であり、「揺り戻し」は、揺さぶられてある方向に進んでいたものが、もとの方向に戻されてしまうことを意味する。また、同じような意味を表す「反動」と言い換えることもできる。 ・バスケットボールなどの球技で、ボールが跳ね返ることを指して「リバウンド」という場合がある。スポーツに縁の遠い人に意味を伝えたい場合は、「跳ね返り」などの語を用いて説明を付与するとよい。 ・株式の用語で、下落した株価が上昇に転じることをいう場合があるが、「反発」などの語で言い換えることができる。 ・定着に向かっていて「リバウンド」をそのまま用いることにさほど問題のない場面も多いと思われる。ただし、60歳以上では半数以上が分からない語であり、言い換えや説明付与が望まれる場合も多い。 	
その他の言い換え語例	反動 跳ね返り 反発	

【調査データ】

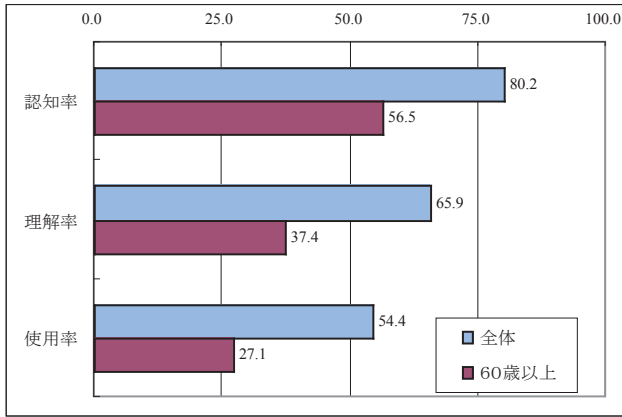


図1 定着度（全体・60歳以上）%

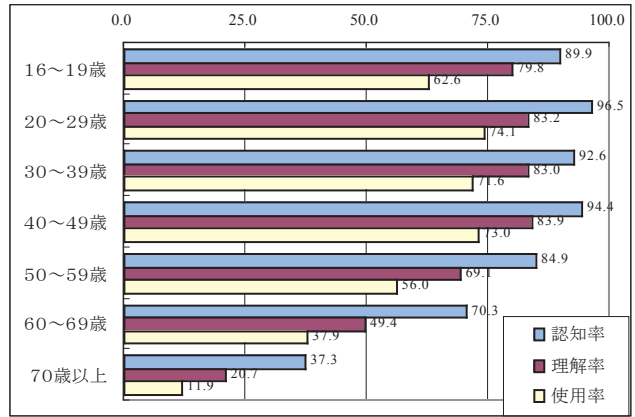


図2 定着度（年齢層別）%

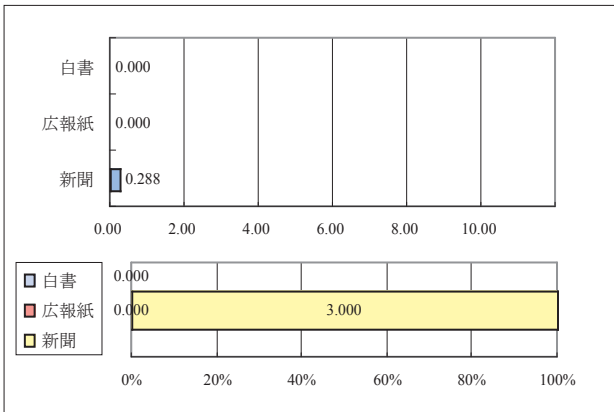


図3 公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

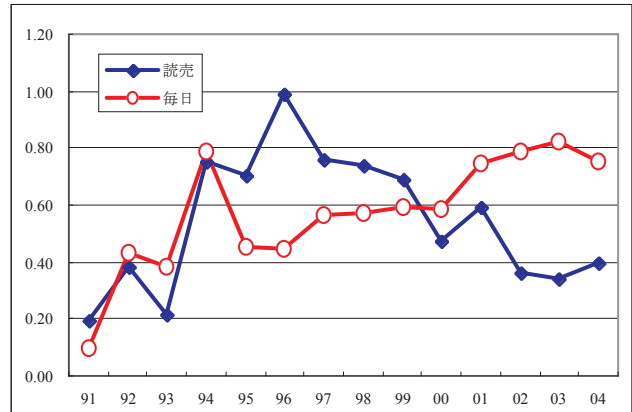


図4 新聞14年間の頻度推移 (出現率)

- 定着度はやや高い。年齢層による差異が大きい。
- 公共媒体における頻度は低い。新聞への偏在度が高い。
- 1990年代半ばまで増加の方向にあり、その後はほぼ横ばいである。読売新聞では2002年以後減少している。ただ、新聞ではバスケットボールの用語の例が大半を占める。

【言い換えの論点】

- バスケットボールの用語は言い換えるの必要性はあまりなく、株式の用語には「反発」という言い換え語が定まっている。言い換えの工夫の必要性が特に高いのは、服薬や減量など、医療場面で用いられる「リバウンド」である。
- 「揺り戻し」は、若い年齢層にはかえって分かりにくいのではないかという意見があり、[手引き]で、この語の意味を解説した。

168. リユース reuse

「外来語」言い換え提案（第4回）

リユース	全体 ★☆☆☆	60歳以上 ★☆☆☆
言い換え語	再使用	
用例	再使用 建材の70%をリユースするため販売価格は新築よりも約40%安くなります。	
意味説明	一度使用したものを再度使用すること	
手引き	<ul style="list-style-type: none"> ・天然資源の消費を抑え環境への負担を減らす循環型社会の実現に向け、国が策定した「循環型社会形成推進基本計画」（2003年）に、廃棄物の発生を抑制する「リデュース」[⇒164]、使用済みの製品を再使用する「リユース」、廃棄物を原材料にして別の製品を作る「リサイクル」の三つが、「3R」としてうたわれている。 ・「3R」を話題にする場合も、「リデュース（ごみ発生抑制）」「リユース（再使用）」「リサイクル（再生利用）」などのように説明を付けたり、言い換えたりする配慮が望まれる。 ・「リサイクル」は、一般には、「3R」で言われている「リユース（再使用）」と「リサイクル（再生利用）」とを合わせた意味に理解されていることが多い。「3R」の考え方を説明する場合には、この点にも注意が必要である。 ・「リユース（再使用）」は洗うなどしてそのまま繰り返し使うことであり、「リサイクル（再生利用）」は溶かしたり砕いたりして原料に戻してから新しい製品を作ることである。循環型社会実現のための「3R」の取組の中では、「リユース（再使用）」の方が、「リサイクル（再生利用）」よりも環境にかける負担が小さく、優先度は高い。 ・「もう一度使うこと」「繰り返し使うこと」などと説明的な語句を用いるのも分かりやすい。 ・類似の意味の語に「リターナブル」[⇒163]がある。「リターナブル」は、回収して再使用できる様子を表し、再を使用することを広く表す「リユース」の意味の一部を表している。 	
その他の言い換え語例	繰り返し使うこと	

【調査データ】

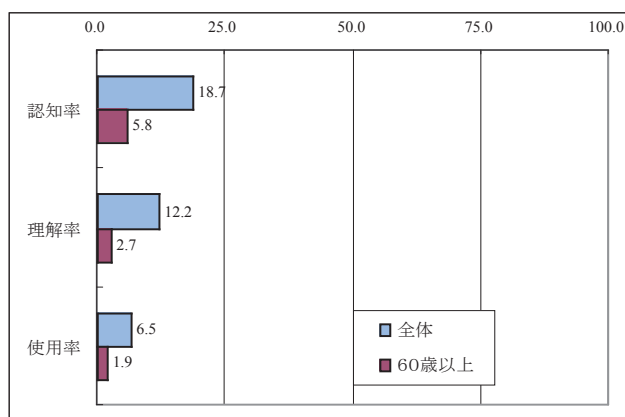


図1 定着度（全体・60歳以上）%

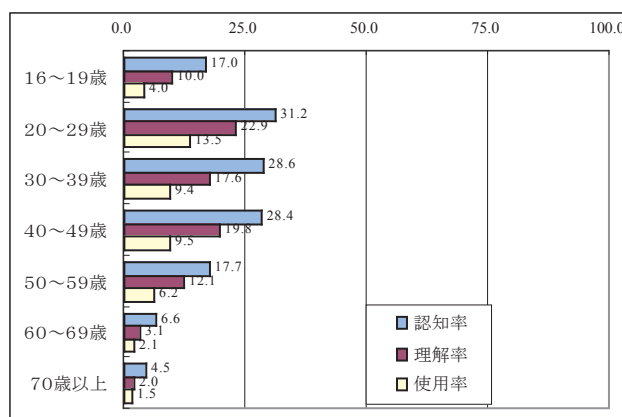


図2 定着度（年齢層別）%

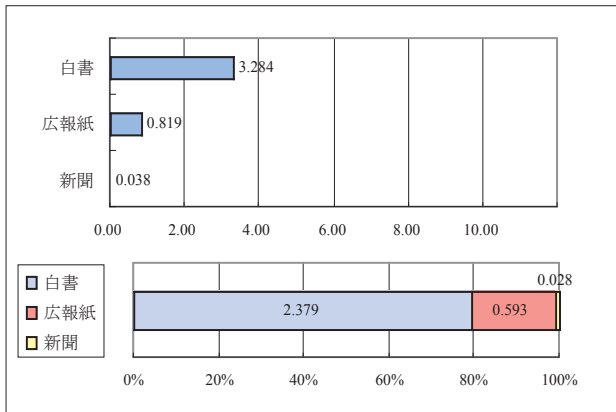


図3 公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

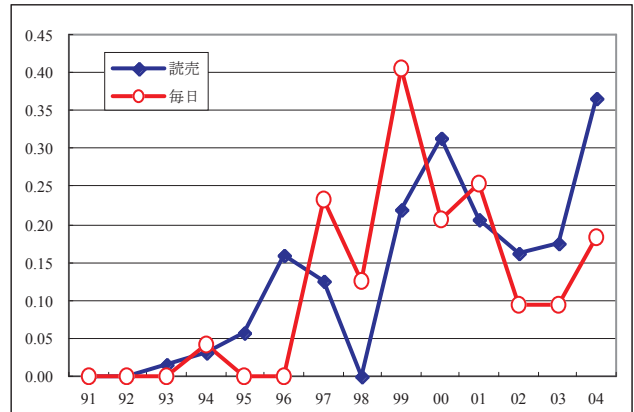


図4 新聞14年間の頻度推移(出現率)

- 定着度はきわめて低い。
- 公共媒体の頻度は中程度だがどちらかといえば低い。白書への偏在度がきわめて高い。
- 新聞の頻度は、1993年に登場して以後、増加の方向にある。

【背景事情】

- 天然資源の消費を抑え、環境への負担を減らす政策として、従来は「リサイクル」の推進がうたわれていたが、「リデュース」「リユース」「リサイクル」の「3R」の推進がうたわれるようになった。「3R」は2003年の「循環型社会形成推進基本計画」に盛り込まれた。

【言い換えの論点】

- 「3R」の考え方を普及するためには、分かりやすい言い換えや説明が必須である。「リデュース(ごみ発生抑制)」「リユース(再使用)」「リサイクル(再生使用)」などの言い添えの工夫が効果をあげると考えた。
- 「再使用」という意味を共通に持つ類義語に「リターナブル」があるが、「リターナブル」には「回収」という意味が含まれる点が異なっている。この違いを分かりやすく示す工夫の必要性を[手引き]に記した。

→参照 リターナブル, リデュース

169. リリース release

「外来語」言い換え提案(第4回)

	全体 60歳以上 リリース ★★★★★ ★★★★★
言い換え語 発表	
用例 久しぶりに自ら手がけた楽曲を <u>リリース</u> した。	
意味説明 作品や情報などを発表すること	
手引き ・何をどのように発表するかに応じて、「公開」「発売」「封切り」などの言い換え語が適切になる場合もある。	

- ・ 定着に向かっている語だと思われ、「リリース」をそのまま用いることにさほど問題のない場面も多いと思われる。ただし60歳以上では、半数以上が分からない語であり、言い換えや説明付与が望まれる場合も多い。
- ・ 釣り上げた魚を放流することを指して用いられることもあるが、その場合は、「放流」などの語を用いて説明を付けることができる。

【その他の言い換え語例】 公開 発売 封切り

【複合語例】 プレスリリース = 報道発表

【調査データ】

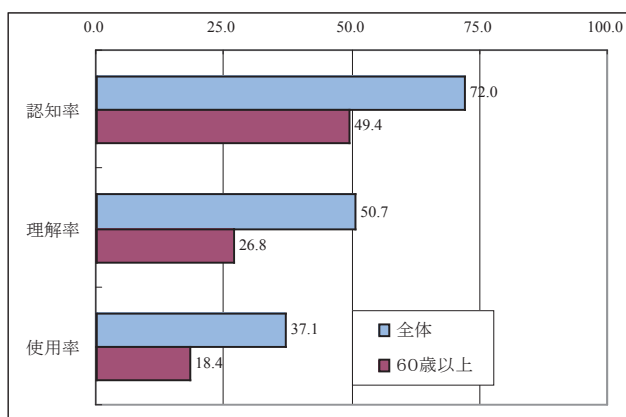


図1 定着度(全体・60歳以上) %

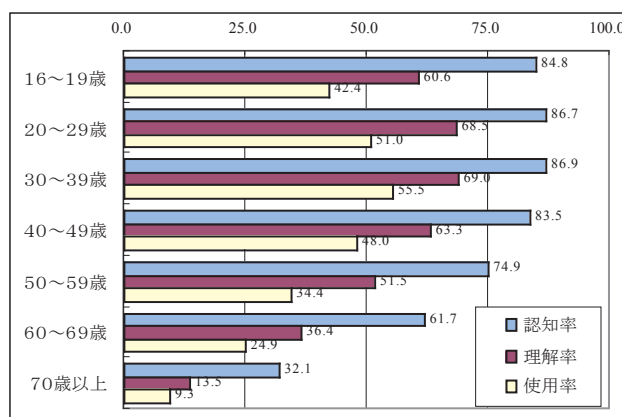


図2 定着度(年齢層別) %

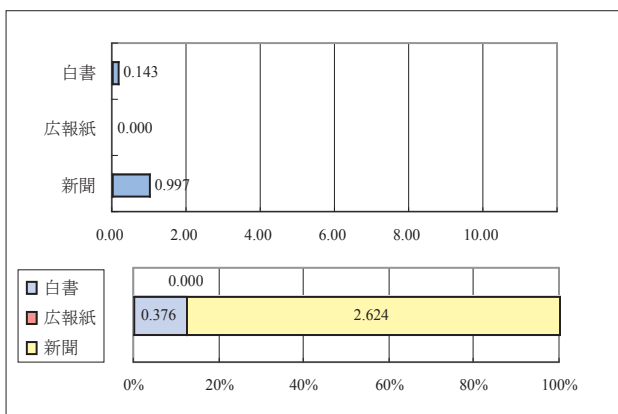


図3 公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

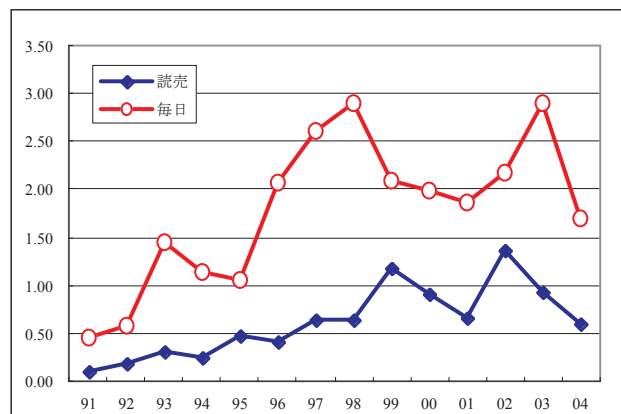


図4 新聞14年間の頻度推移(出現率)

- 定着度は中程度だがどちらかといえば高い。年齢層による差異が大きい。
- 公共媒体の頻度は中程度だがどちらかといえば低い。新聞への偏在度が高い。
- 新聞の頻度推移は、全体を通して増加の方向にある。

【言い換えの論点】

- 釣り用語の「リリース」は言い換えの対象には想定していない。この点については[手引き]に触れ、必要に応じて説明を付けるべきことを記した。

170. レシピエント recipient

「外来語」言い換え提案（第4回）

	全体	60歳以上
レシピエント	☆☆☆☆	☆☆☆☆
言い換え語	移植患者	
用例	脳死移植の定着には、 <u>移植患者</u> が順調に回復し、国民が移植医療の威力を肌で感じることも大切だ。	
意味説明	移植手術において臓器などの提供を受ける人	
手引き	<ul style="list-style-type: none"> 臓器などの提供を希望する人を指す場合は「移植希望者」と言い換えるのが分かりやすい。また、「移植を受ける人」「移植を待つ人」のような句の形で言い換えるのも分かりやすい。 臓器のほか、骨髄移植や^{さいたいけつ}臍帯血移植における^{さいたいけつ}骨髄や^{さいたいけつ}臍帯血を受け取る人を指して使われることもある。何を受け取る人かを具体的に示して「臓器受容者」「骨髄受容者」あるいは「心臓移植希望者」などと言い換えるのも、分かりやすい。 政府開発援助において援助国からの資金を受け取る国を「レシピエント」ということがあるが、この場合は「援助受け入れ国」などと言い換えることができる。 臓器などや資金を提供する側を指して、「ドナー」[⇒98]と言われることがある。この場合は、「臓器提供者」「資金提供国」などと言い換えることができる。 	
その他の言い換え語例	移植希望者 移植を受ける人 移植を待つ人 臓器受容者 骨髄受容者 心臓移植希望者 援助受け入れ国	

【調査データ】

- 定着度はきわめて低い。
- 公共媒体における頻度はきわめて低い（調査対象には使用例がない）。
- 新聞の頻度推移は、何箇所かに突出する年があるが、それ以外の年では総じて低頻度である。

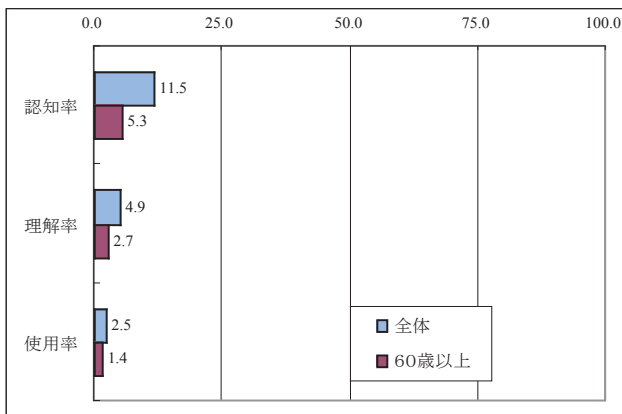


図1 定着度（全体・60歳以上）%

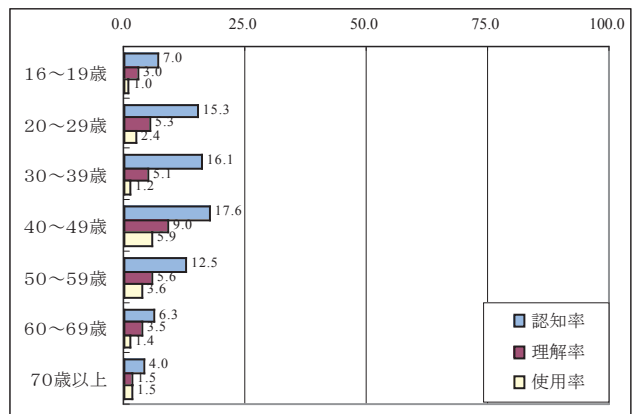


図2 定着度（年齢層別）%

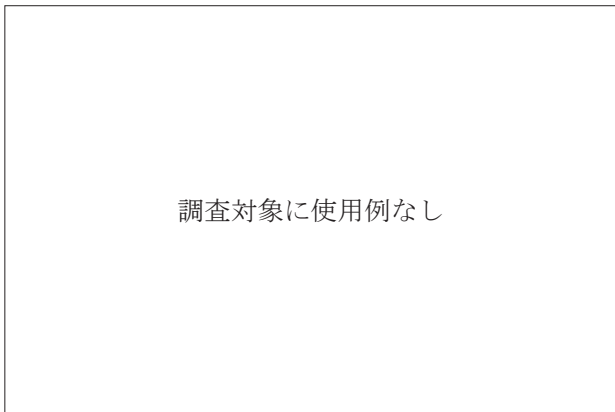


図3 公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

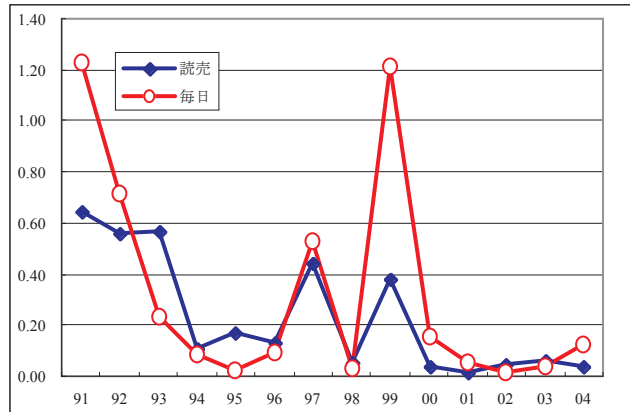


図4 新聞14年間の頻度推移 (出現率)

【背景事情】

- 新聞で「レシピエント」の頻度が突出する、1991～1993年、1997年、1999年は、「ドナー」の頻度も突出する年である。それぞれ、「臨時脳死及び臓器移植調査会」(脳死臨調)の最終答申(1992年)、「臓器の移植に関する法律」(臓器移植法)の施行(1997年)、国内で初めての脳死移植の実現(1999年)の年で、新聞で大きく取り上げられたことによる。
- 上記のような出来事を機に「ドナー」は次第に普及し定着に向かっていっているのに対して、「レシピエント」の語の普及は、ほとんど進んでいない。これには次のような事情が考えられよう。「ドナー」が簡潔な語形であるのに対して、「レシピエント」が長くて覚えにくい語形であること。移植において「ドナー」の側が、臓器の提供者として話題になりやすいのに対して、移植を受ける側は、臓器の受容者としてよりも、患者として話題になりやすいこと。
- 「ドナー」の場合に一定程度見られた「資金提供者」に対応する「レシピエント」の用法(「資金を受け取る人(国)」を意味する例)は、公共媒体にはほとんど見られない。

【言い換えの論点】

- 移植を受ける人を表す場合と、移植を受けるのを希望する人を表す場合の、両側面がある。この区別を言い換え語に生かして使い分ける方法について、[手引き]で言及した。

→参照 ドナー

171. ロードプライシング road pricing

「外来語」言い換え提案(第3回)

	全体	60歳以上
ロードプライシング	★☆☆☆	★☆☆☆
言い換え語	道路課金	
用例	道路整備や低公害自動車の普及と合わせてロードプライシングに取り組む方針を打ち出した。	
意味説明	環境保護や混雑緩和などを目的に、特定道路の通行や駐車に課金し、交通量を抑制する仕組み	
手引き	・制度を指す場合は「道路課金制度」と言い換えることができる。	

- ・交通量を抑制したい道路に課金する場合だけでなく、別の道路に車を誘導するために、料金を安くすることを指す場合もある。

その他の言い換え語例 道路課金制度

複合語例 環境ロードプライシング = 環境道路課金

【調査データ】

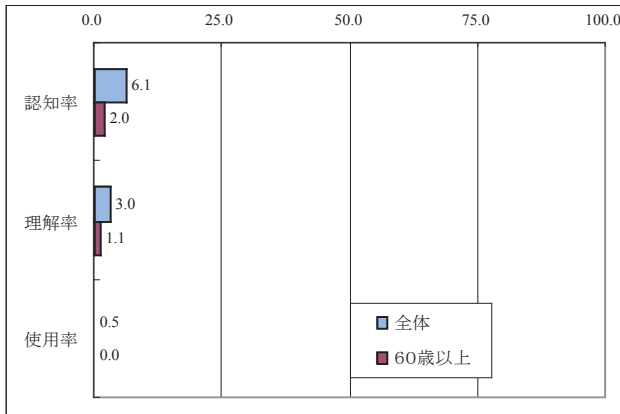


図1 定着度（全体・60歳以上）%

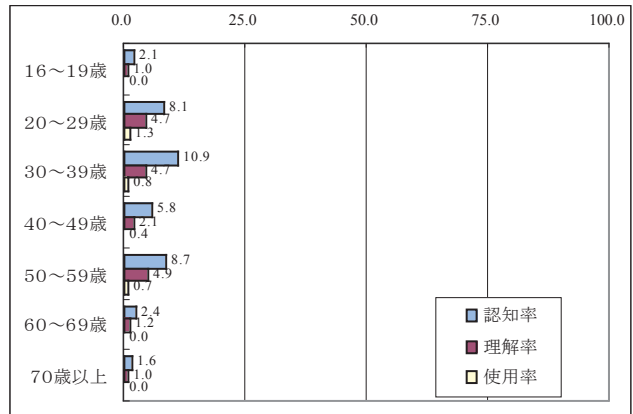


図2 定着度（年齢層別）%

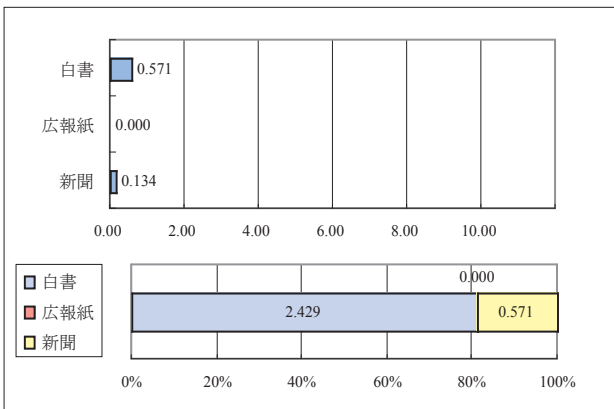


図3 公共媒体における頻度（出現率）と偏り（特化係数）

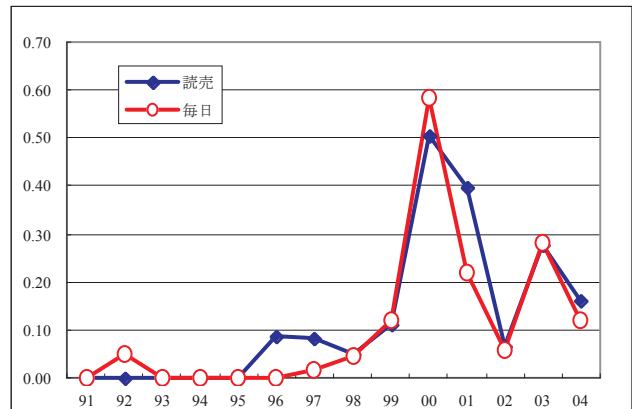


図4 新聞14年間の頻度推移（出現率）

- 定着度はきわめて低い。
- 公共媒体における頻度はやや低い。白書への偏在度がやや高い。
- 新聞の頻度推移は、2000年を頂点にその前後で増減の方向が交替する。その後2003年にも小さな山がある。

【背景事情】

- 環境保全や混雑緩和を目指す政策として、2000年前後にいくつかの動きがあり、いくらか広まった。しかし、この政策はまだ実験段階であり、行政が力を入れなくなると、ほとんど話題にもなくなる状況である。

【言い換えの論点】

- 定着度のきわめて低い語であるので、今後の政策で普及を図るならば、分かりやすい言い換え語の必要性は高いと考えた。「課金」の語を含めることで、仕組みを意味することが示せ、「道路」の語を含めることで、従来あった有料道路の「通行」料金との違いが表せる、と考えた。

172. ログイン log-in

「外来語」言い換え提案（第2回）

ログイン	全体 ★☆☆☆	60歳以上 ★☆☆☆
言い換え語	接続開始	
用例	パスワードの有効期限は約3ヶ月とし、これを過ぎると ^{接続開始} ログインの際にパスワードの変更が必要となる。	
意味説明	コンピューターシステムを使うための接続開始の手続	
手引き	<ul style="list-style-type: none"> ・接続することよりも利用することに着眼して「利用開始」と言い換えることもできる。文脈によっては、単に「接続」「利用」と言い換える方が分かりやすい場合もある。 ・接続開始のための手続自体を指す場合には、「接続登録」「利用登録」と言い換えるとよい。また、接続の前に、名前やパスワードで確認する手続を指す「認証」と言い換えられることもある。 ・「ログオン」も同じ意味で使われ、「ログイン」の場合と同じ言い換え語や説明付与が適用できる。反意語「ログアウト」「ログオフ」は、「接続解除」「利用終了」「切断」と言い換えられる。 ・コンピューターに詳しい人にとってはある程度定着しつつある語であるが、コンピューターをあまり使わない人には分かりにくさが残る。必要に応じて、言い換えたり説明を付与したりすることが望まれる。 	
その他の言い換え語例	利用開始 接続 利用 接続登録 利用登録 認証	
複合語例	ログイン名 = 接続登録名 利用登録名	

【調査データ】

- 定着度は低い。20歳代が高く、60歳代が特に低い。
- 公共媒体における頻度は低い。新聞への偏在度が高い。
- 新聞の頻度はきわめて低いため、増減の傾向を見ることはできない。

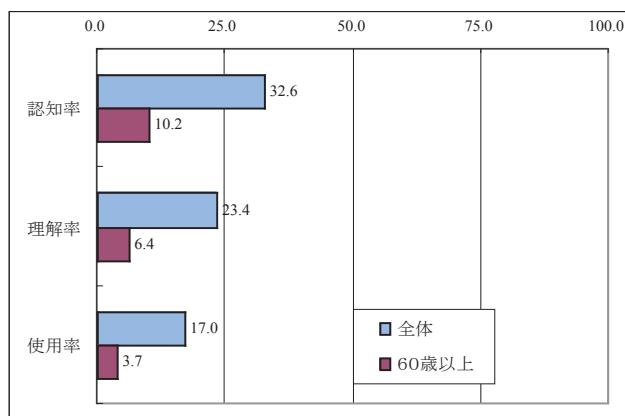


図1 定着度（全体・60歳以上）%

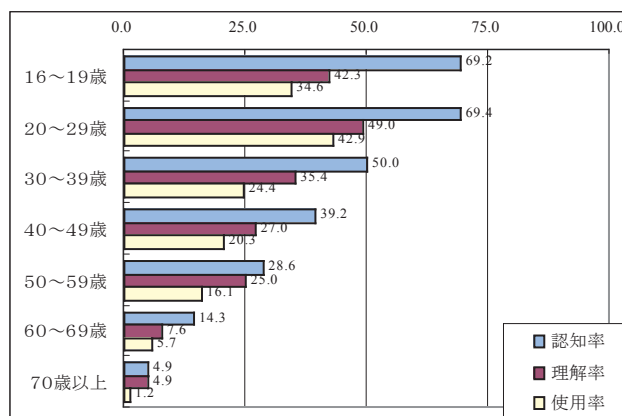


図2 定着度（年齢層別）%

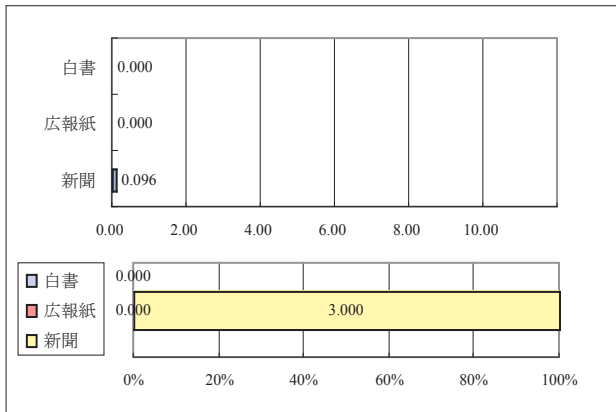


図3 公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

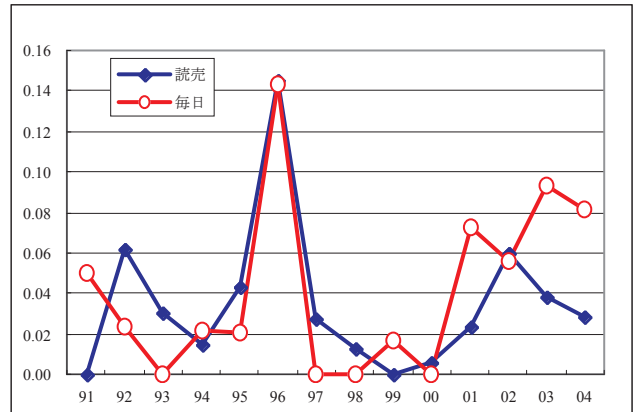


図4 新聞14年間の頻度推移(出現率)

【言い換えの論点】

- コンピューター用語は、平易な単語でどう言い換えても、その意味を十分に伝えることは難しいので、外来語を用いて説明を付けるという方式がよいと考えた。一方で、コンピューターに詳しくない人に対して、おおよその意味を伝える際には言い換えが効果を持つので、その場合は意味の正確さを求めずに、粗い意味を伝える言い換え語がよいと考えた。
- 上記の立場にしたがい、「接続」「利用」そして「開始」といった簡潔な言葉や、それらを組み合わせた言葉を、言い換え語や[その他の言い換え語例]に掲げた。

173. ワーキンググループ working group

「外来語」言い換え提案(第1回)

ワーキンググループ	全体 ★★☆☆	60歳以上 ★☆☆☆
言い換え語	作業部会	
用例	厚労省は専門家で構成する <u>ワーキンググループ</u> で販売品目を選定する方針だが、	
意味説明	委員会などの中に設置される、具体的・実務的な作業や調査をする集まり	
手引き	・類義の外来語に、「プロジェクトチーム」、「タスクフォース」[⇒89]がある。新しい企画に向かって活動を行う「プロジェクトチーム」は「企画部会」と、ある課題を解決するために特別に作られる「タスクフォース」は「特別作業班」と言い換えられる。	

【調査データ】

- 定着度はやや低い。40歳代が高く、60歳代が低い。
- 公共媒体における頻度はやや高い。白書への偏在度が高い。
- 新聞の頻度は、読売新聞が2002年まで増加し、その後減少に転じているが、毎日新聞では、増減の方向は見られない。

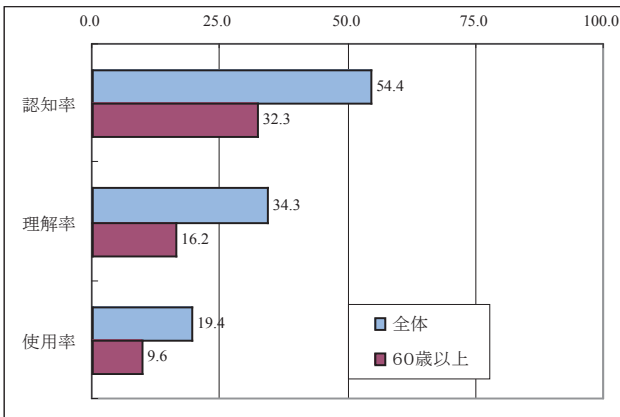


図1 定着度（全体・60歳以上）%

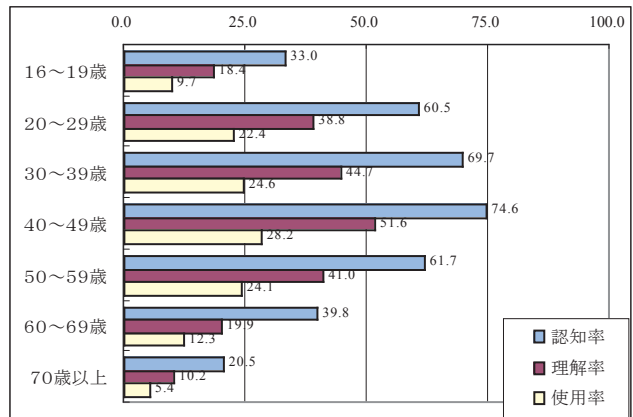


図2 定着度（年齢層別）%

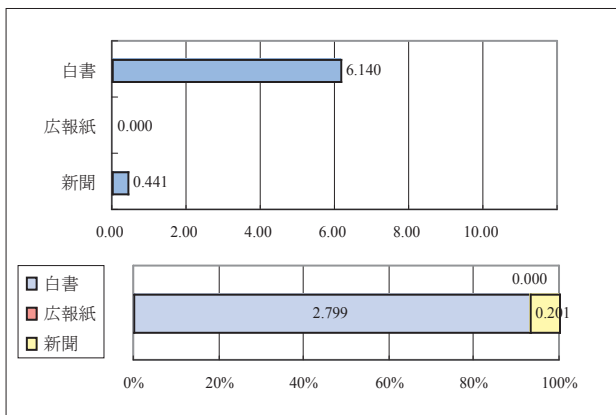


図3 公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

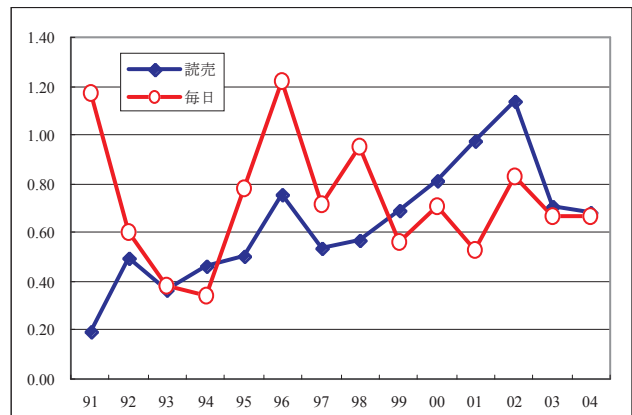


図4 新聞14年間の頻度推移(出現率)

【言い換えの論点】

○「作業部会」は、言い換え語としてすでに実績があり、意味も適切であり、全く異論はなかった。類義語の「プロジェクトチーム」「タスクフォース」と比べた時に、相互の関係や違いが分かる言い換え語とすることに留意した。特に、「タスクフォース」の言い換え語とした「特別作業班」は、「作業部会」との対比において、その意味が際立つと考えた。

→参照 タスクフォース

174. ワークシェアリング work-sharing

「外来語」言い換え提案（第4回）

	全体	60歳以上
ワークシェアリング	★★☆☆	★☆☆☆
言い換え語	仕事の分かち合い	
用例	日本でも今後ワークシェアリングが普及する可能性が出てきた。	
意味説明	一人当たりの労働時間を短くし、多くの人で仕事を分かち合うこと	

手引き

- ・一人当たりの労働時間を短縮し、多くの人の雇用を維持・創出しようという考え方であり、具体的な取組には幾つかの形がある。
- ・従来よく言われてきたのは、景気の悪化を乗り越えることなどのために、従業員一人当たりの勤務時間を短縮して、多くの従業員の雇用を維持しようとする取組である。
- ・最近注目されてきているのは、短時間労働者を正社員として雇用する機会を増やし、過剰な残業を減らしたり、生涯段階に応じて働き方を選べるようにしたりする取組である。社会全体で仕事を分かち合おうとする取組であるが、「多様な働き方のできる職場環境の整備」などと説明することも考えられる。
- ・上記の二つの形は、2002年に政府・日経連・連合により合意された「ワークシェアリングについての基本的な考え方」の中に、それぞれ「緊急対応型ワークシェアリング」「多様就業型ワークシェアリング」として、盛り込まれている。
- ・「ワークシェア」という語形で用いられることもあるが、意味は同じである。

その他の言い換え語例

多様な働き方のできる職場環境の整備

【調査データ】

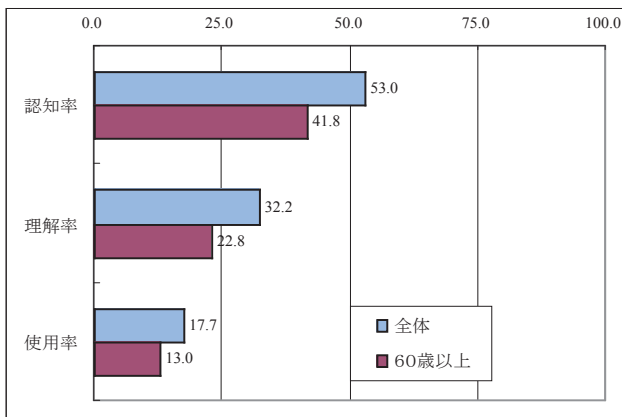


図1 定着度（全体・60歳以上）%

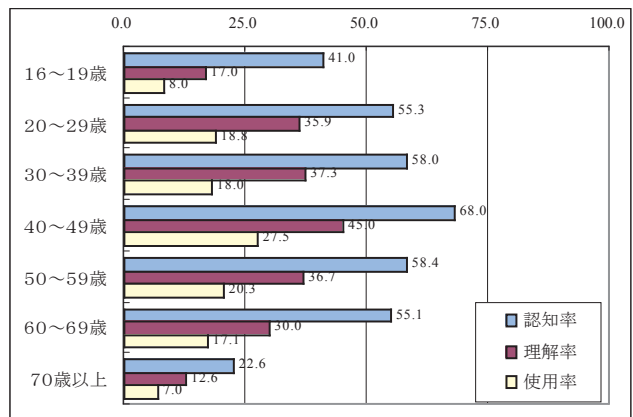


図2 定着度（年齢層別）%

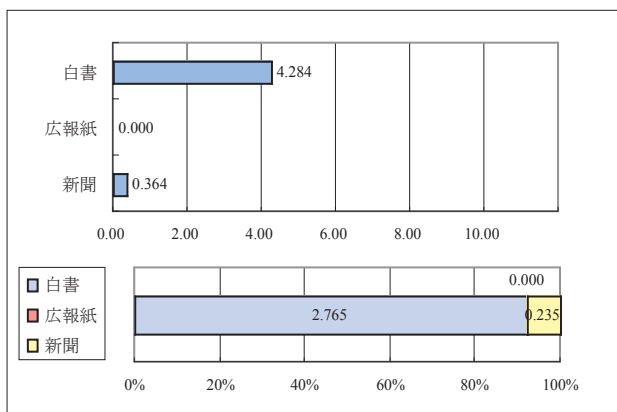


図3 公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

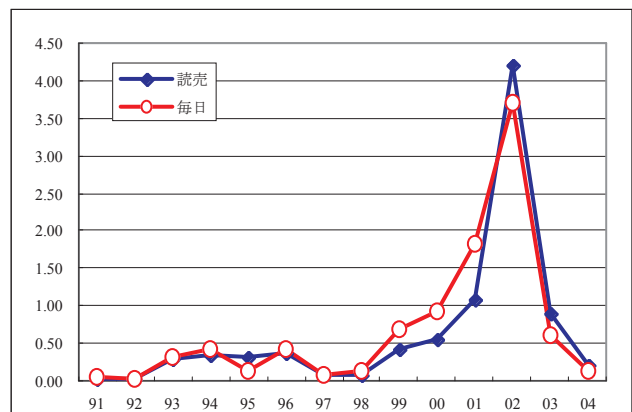


図4 新聞14年間の頻度推移(出現率)

- 定着度はやや低い。
- 公共媒体における頻度はやや高い。白書への偏在度が高い。
- 新聞の頻度は、2002年に突出するが、1999年から2002年までは増加し、その後は減少に転じている。

【背景事情】

- 新聞の頻度が2002年で突出するのは、政府・日経連・連合による合意「ワークシェアリングについての基本的な考え方」にかかわる動きを伝える記事が多いことによる。
- 上記の合意では、手引きに記した二つの「ワークシェアリング」のうち「多様な働き方のできる職場環境の整備」の方に重点が置かれている。しかし、1999年以後に新聞で使われた「ワークシェアリング」の実例は、旧来の、多くの従業員の雇用を守るための仕事の分かち合いを表すものも多い。

【言い換えの論点】

- 「多様な働き方のできる職場環境の整備」の意味を、「ワークシェアリング」の語に担わせるのは、たとえ政策がその方向に動いていても、現実的には無理があるのではないかという意見が強かった。「ワークシェアリング」の基本的な意味を、まずは「仕事の分かち合い」という説明的な言い換え語でとらえることが重要と考えた。政策上の新しい動きは、外来語の意味の問題とはひとまず別にして、情報を提示するのがよいと判断した。

175. ワークショップ workshop

「外来語」言い換え提案（第2回）

ワークショップ	全体 ★★☆☆	60歳以上 ★★☆☆
言い換え語	研究集会	
用例	公園や道路、福祉施設などの企画・設計を区民による <u>ワークショップ</u> で話し合い	
意味説明	専門家の助言を受けながら、参加者が共同で研究や創作を行う場	
手引き	・研究の場の場合は「研究集会」、演劇など創作の場合は「創作集会」と言い換えることができる。	
その他の言い換え語例	参加型講習会 創作集会	

【調査データ】

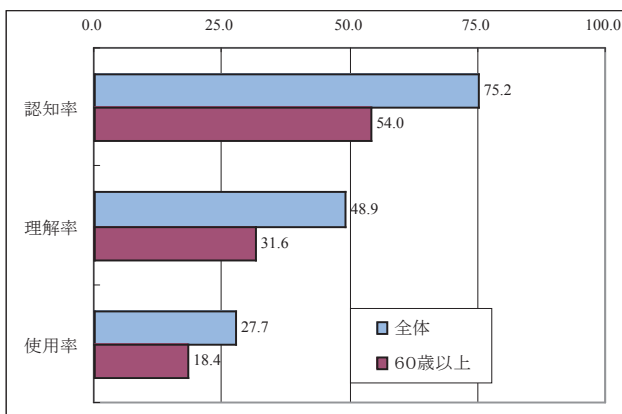


図1 定着度（全体・60歳以上）%

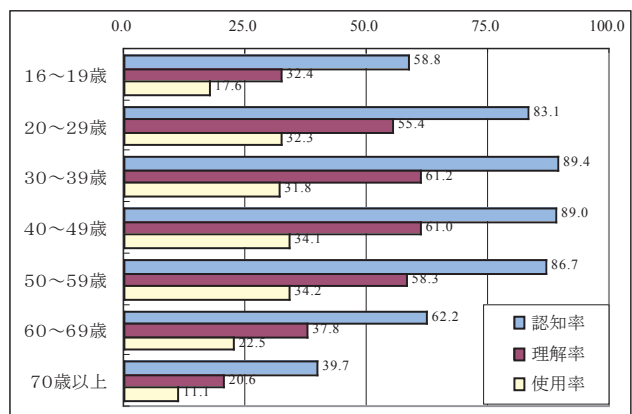


図2 定着度（年齢層別）%

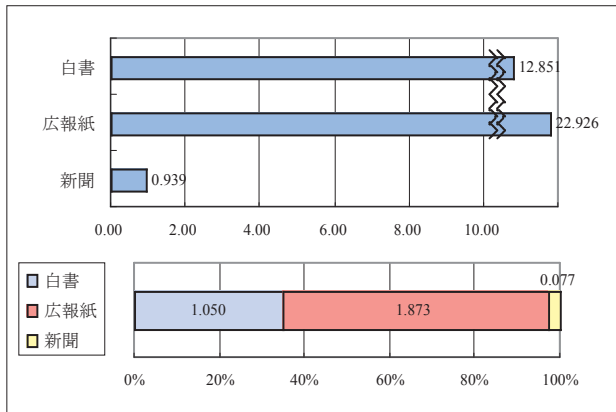


図3 公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

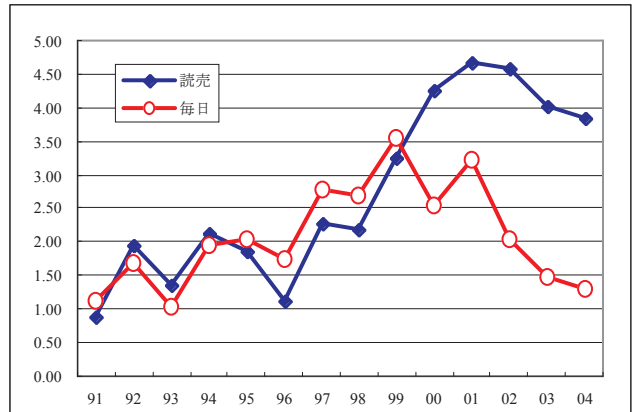


図4 新聞14年間の頻度推移(出現率)

- 定着は中程度だがどちらかといえば低い。認知率と理解率の乖離が大きい。
- 公共媒体における頻度はきわめて高い。広報紙への偏在度がやや高い。
- 新聞頻度は2001年頃までは増加の方向が明らかであるが、2002年以後は横ばい、もしくは減少の方向である。

【言い換えの論点】

- 「ワークショップ」の内容や機能が確立している演劇の分野は言い換えになじまないという意見があった。一方で、研究や学習の集会の意味で使う場合は、従来ある「研究会」や「研修」「講習」などの語で十分という意見もあった。後者の意味での用法を言い換えの主たる対象とすべきと考え、「研究集会」を言い換え語として掲げた。

176. ワンストップ one-stop

「外来語」言い換え提案(第4回)

	全体	60歳以上
ワンストップ	★☆☆☆	★☆☆☆
言い換え語	一箇所	
用例	一箇所 ワンストップであらゆる相談に応じることで利用者の利便性が増す。	
意味説明	複数の用事を一箇所で済ませられること	
手引き	<ul style="list-style-type: none"> ・「ワンストップ化」「ワンストップサービス」「ワンストップショッピング」などの複合語で用いられることが多い。「ワンストップ」の形であっても、実際にはこれらの複合語の後半を省略して用いている場合が多いので、注意が必要である。文脈に応じて、「窓口一元化」「総合窓口」「総合店舗」などの言い換え語を使い分けるのも分かりやすい。 ・「一箇所」の「箇」は常用漢字であるが、新聞などでは「一か所」「一カ所」「一ヶ所」などと仮名を用いて書くこともある。 	
その他の言い換え語例	一箇所集中 窓口一元化 総合窓口	

複合語例 ワンストップ化 = 窓口一元化
 ワンストップサービス = 総合窓口 窓口一元化
 ワンストップショッピング = 総合店舗 窓口一元化

【調査データ】

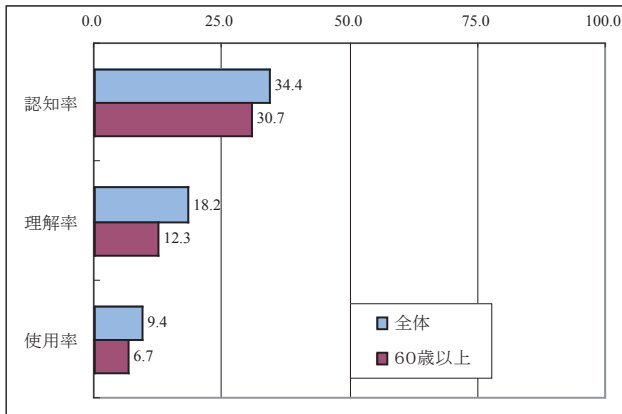


図1 定着度（全体・60歳以上）%

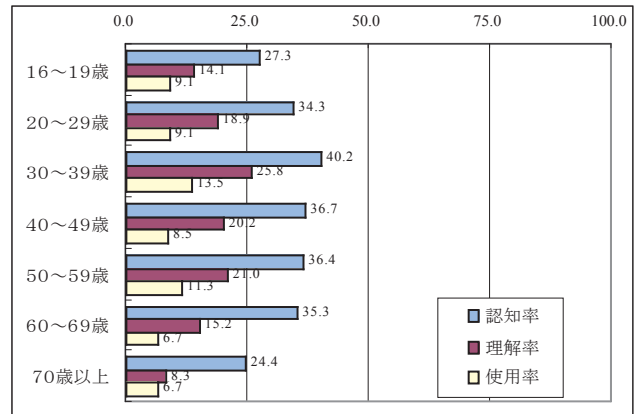


図2 定着度（年齢層別）%

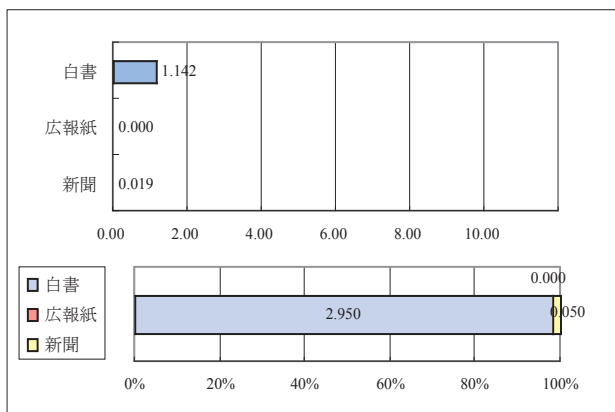


図3 公共媒体における頻度(出現率)と偏り(特化係数)

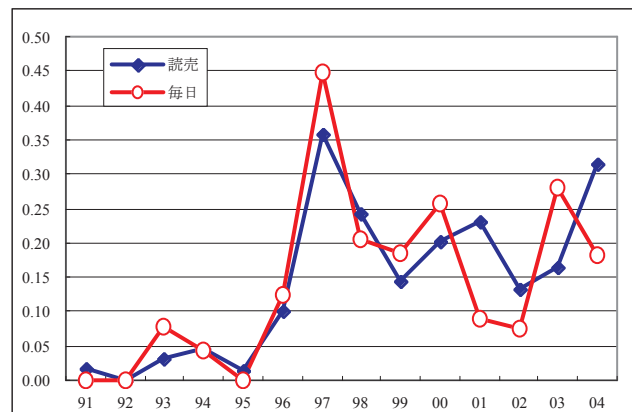


図4 新聞14年間の頻度推移 (出現率)

- 定着度は低い。
- 公共媒体における頻度は中程度だがどちらかといえば低い。白書への偏在度がきわめて高い。
- 新聞の頻度は1997年の突出が目立つが、この年を除けば、全体として増加の方向にある。

【背景事情】

- 新聞で1997年の頻度が特に高いのは、郵政事業の改革の議論の中で、郵便局を「ワンストップ行政サービス」の拠点とする施策が話題になったことによる。これ以後の施策においても、郵便局以外の役所も含め、行政の窓口サービスの向上策として、「ワンストップ」の語がよく使われている。白書への偏在度がきわめて高いことから分かるように、行政主導で広まっている外来語である。

【言い換えの論点】

- 「ワン」も「ストップ」も平易な外来語だが、「ワンストップ」となるときわめて分かりにくいという意見が強かった。行政主導で広まっている外来語であるので、言い換えなどの対策の必要性は高いと考えた。
- 用例は「ワンストップ（行政）サービス」「ワンストップショッピング」などの複合語が非常に多く、「ワンストップ」単独語でも、これらの複合語の場合と同じ意味を表す例がある。その場合に適用できる言い換え語として、「総合窓口」「窓口一元化」が分かりやすいことを明示した。